# 扇出土遺跡の性格と扇を使用する祭祀について

近藤 正枝

#### はじめに

平成25年度(2013)に当センターが発掘調査を実施した興福地遺跡(大垣市)の井戸SE3の底から、扇子の骨3本が出土した。井戸の底から出土した細い棒が扇であることに気付いたのは洗浄した直後で、材質、形状が似ているものが3本あり同一個体と判断した。当初は檜扇と思っていたところ三重大学名誉教授八賀晋氏から扇子であるとご教示をいただいた。

平成 25 年度の興福地遺跡の調査面積は 583 ㎡で、井戸以外には掘立柱建物、掘立柱塀、溝を検出し、 平成元年に大垣市教育委員会が実施した 1,300 ㎡の同遺跡の発掘調査では掘立柱建物などを検出して いる。興福地遺跡は「中河御厨」に比定されており、遺跡範囲は調査地点から北へと広がる微高地上 に展開していく。瓦、墨書土器、志摩式製塩土器、ふいご羽口、緑釉陶器が出土しており一般集落で はない様相を示しているが、どのような性格の遺跡なのかは建物遺構の広がりが確認できないとよく わからないという状況である。そこで、「扇」が出土している遺跡を集成すれば、どのような遺跡が 広がっているかを想定することができると考え、今回の集成にいたった。

扇出土遺跡集成の方法は、まず、『木器集成図録』近畿古代篇と『木の考古学』のデータベースから扇出土遺跡を抽出し、当センター蔵書の報告書と当センターに無いものは奈良文化財研究所にて報告書を確認した。ここまでの報告書確認の時点で、官衙や屋敷から出土すると想定し、官衙については奈良文化財研究所の古代地方官衙関係遺跡データベースを参考にして、当センター蔵書報告書を確認した。近年刊行の報告書については、当センター蔵書のものを確認した。今回の集成は当センター蔵書を中心に集成しているため、官衙とわかっていても報告書を確認できず集成できていない遺跡もあり、扇出土遺跡すべてを網羅できているわけではないことをご承知おきいただきたい。

また、扇は、檜扇と扇子の両方を集成している。檜扇と扇子の区別は、報告書に記載のとおりに入力している。檜扇としているものの中には幅が細く扇子ではないかと思われるものもあるが、扇と伴に出土している土器の時期から、奈良時代や平安時代の時期のものを檜扇、鎌倉時代以降のものを扇子と判断しているものと考えられる。

檜扇(桧扇):ヒノキのうす板でつくった扇。宮城県山王遺跡の例のように樹種がサワラ、スギ、モミ属など、ヒノキではないものもある。奈良時代前半(平城京出土)から11世紀初頭(徳島県観音寺遺跡出土)の時期の遺物とともに出土している。下端部に比べて上端部の幅が広く、厚さ0.1cm前後のうす板を、下端部のみでなく上端部など数カ所で数枚を綴じたもの。中骨は薄いが親骨は0.6cmと厚いものもあるため、基部の破片で出土すると檜扇なのか扇子なのかの判断はほとんどできない。払田柵跡 SL1035出土の37は上端部の幅が狭くなり形状は扇子のようであるが、出土遺物から9世紀後半とし檜扇としているものもある。

扇子: 檜扇から発展したもので、幅の細い骨をもつ紙扇で、現在の扇子が両面に紙を貼るのに対して 片面のみに紙を貼る。骨の数は5本以上で時代とともに本数が増えていく。上端部と下端部の幅が 最大幅に比べて狭くなるか一律に細い。厚さは0.3cm 前後のものが多い。樹種はヒノキ、スギが多 くまれに竹、トウヒなどでつくられている。広げた形が蝙蝠(こうもり)に似ているので蝙蝠(か わほり)扇ともいう。10世紀代から13世紀末(新潟県山岸遺跡出土)の遺物とともに出土している。

#### 扇出土遺構について

扇が出土している遺構は、井戸、河、運河、溝、堀、大路の側溝、柱穴、便所遺構である(表  $1\sim 10$  参照)。桧扇 1 枚、扇子の骨 1 本だけで出土し斎串として使用していると思われるものが 186 例、要が残り数枚、数本の束で出土し、扇として埋納されたと思われるものが 65 例ある。扇として埋納されたと判断したものは、要が残存している物、出土状況で閉じた状況で出土していると記載のあったものである。扇として埋納されたものが 26%、斎串として使用されたと考えられるものが 74%である。扇として埋納しているもの、斎串として使用しているものの両方ともに、どの時期においてもみられるため時代の違いでも、遺構の違いでもないようである。

興福地遺跡の斎串として使用された扇子の骨は3本で、井戸底の西側から出土している。金沢市千 木ヤシキダ遺跡 SE2 出土の扇子の骨は1本のみの出土で、斎串として使用したのか墨痕があり、「魚」 という文字が見える。斎串として使用した扇は、扇の持つ呪力をそのまま生かして地面に挿したので あろう。徳島県黒谷川宮ノ前遺跡の自然流路 SR1002 からは檜扇が 13 枚束になり閉じた状態で出土し ている。この檜扇の周辺からは人形、斎串、串状木製品が集中する地点が数カ所あるが、扇は集中地 点からは約1m離れて単独で出土している。新潟県寺前遺跡では掘立柱建物の東妻の中柱から3本東 の扇子の骨が漆器皿、箸とともに出土し、地鎮祭祀を行ったと判断されている。また、同遺跡の道状 遺構からも3本束の扇子が出土している。秋田県払田柵跡のSX1192出土15~17は檜扇で、外郭北門 の北東、材木塀の内側、櫓状建物南西のL字形溝から出土しており、境界祭祀と考えられる。岩手県 柳之御所遺跡 23SK83 は便所遺構であるが、多数のチュウ木とともに、扇子の骨1本、鉄鈴、青白磁合 子蓋、土師器皿が出土しており、12世紀後半代に便所遺構を埋めて堀を造る前に祭りを行ったと考え られる。また、柳之御所遺跡 21SK55, 21SK53 は隣あう土坑で、21SK55 からはチュウ木、扇子の骨1本、 土師器皿が、21SK33 からはチュウ木と土師器皿が出土し、土坑を埋める前に祭りを行っている。柳之 御所遺跡から扇が出土している井戸は2基で、それぞれ時期の異なるこの遺跡の中心となる井戸のよ うである。柳之御所遺跡の例から考えると、すべての井戸や便所遺構で埋める前の祭祀を行っていた のではなく、代表的な遺構で祭祀を行っていたようである。新潟県浦廻遺跡では投棄された人骨や卒 塔婆とともに扇子が出土、清洲城下町遺跡では城下町内部の祭祀空間で人骨や卒塔婆とともに扇子が 出土している。浦廻遺跡では人骨が投棄されていることから村落での葬送儀礼と想定されている。

扇を使用した祭祀はどのような祭りであったかであるが、井戸、便所など地面に掘られた穴は、神の住む地下他界への通路であり、神の籠もり場と考えられ<sup>1)</sup>、また、川の流れ、橋のたもと、堀、路の辻はこの世とあの世との接点で、そのような場所においてはこの世に出現する霊や神を慰めたり鎮めたりするための祭りが行われた<sup>2)</sup>と考えられる。斎串として使用したことから考えると、「くぼみに神木をつきさせば陰陽交合の形になり、これは神のみあれの道をひらくもの(中略)地面を掘り下げた穴、神の通路と籠もり場を塞がず、「混沌」「太極」「ニライ(常世)」という聖地に変えるという祭りを行った(中略)伊勢神宮の諸大祭において太玉串は神として遇されており、斎内親王が太玉串を立てさせられるところは瑞垣御門の西側で、西は東の「陽」に対し、「陰」、「女」の方位だ

から、そこに立てられる棒状のものの本質は「陽」であろうと考えられる。」(吉野 1975)という考えがヒントになりそうである。

上記のことから考えると、井戸、河、運河、溝、大路の側溝はすべて水が関連し、湧水、流水に伴う祭祀を行った遺構から扇が出土すると考えられる。水には穢れを流す力があることから「大祓」の祭祀、束になったまま出土することから、清い湧水に扇を奉納するといった祭祀が考えられる。柱穴出土の例は扇以外の出土遺物から地鎮が想定される。また、井戸、河、運河、溝、大路、便所遺構などが、神々の世界とこの世との接点と考えられていたところであることから、この世に出現する霊や神を慰めたり鎮めたりするための祭りを行っていたと考えられ、さらには、地面を掘り下げた穴、神の通路と籠もり場を塞がず、聖地に変えるという祭りを行ったと考えられないだろうか。

興福地遺跡の井戸から出土した扇子の骨3本は、扇の持つ呪力をそのまま生かして地面に挿した斎 串で、神の通路と籠もり場を塞がず、聖地に変えるという祭りを行ったと考えられないだろうか。

#### 扇出土遺跡の傾向

扇出土遺跡で、遺跡の性格が判明している例を上げると、払田柵跡、山王遺跡:国司の館、矢倉口 遺跡:国衙、寺家遺跡:気多神社政庁、柳之御所跡:平泉館、山岸遺跡:守護の館である。

扇出土遺跡を全て網羅しているわけではないので、大胆な仮設をたてるとすると、扇が出土する遺跡は、交通の要所(国府の出先機関)、国司の館、国衙、荘園領主の屋敷、守護・地頭の屋敷、と考えられる。「平安時代においては、扇子は朝廷・貴族の遊芸や僧侶・神職の儀式用の使用に限られていた。」(宮脇 2008)ようである。櫛や木簡、形代が多数出土している遺跡においても扇は出土したりしなかったり、むしろ扇は出土数が少なく出土遺跡は限られており、扇を持つことができる人が限られていたということができるようである。扇が出土する遺跡からは奈良三彩、緑釉陶器、銅印、鏡など出土数が少ない逸品が出土していることが多いようである。

宮城県山王遺跡では9世紀前半に河川跡と東西大路で行われた祓の祭祀を諸国大祓と想定している。島根県の史跡出雲国府跡大舎原地区の1・3・4号建物は国司の館の可能性が高いと考えられており(島根県教育委員会2004)、1号建物の南の4号井戸からは4本東の扇子が出土している。この扇子は井戸枠を覆う土から出土しており、井戸を埋める際の祭りを行っていると考えられる。国司の館を区画する南北方向の4・8号溝からは、「介」の墨書がある須恵器が出土している。「介」は次官級国司の官名である。

国司が行ったと思われる祭りとしては、神社修理や山・川等の自然神への祈願が挙げられる。8世紀段階では、道饗祭、鎮火祭、大祓など、都城で行われていた神祇祭祀が、国衙でも国司の手で臨時に実行されていた。9世紀段階では、臨時祭の名神祭に色々な機能(祈雨、疫病、豊稔祈願等)が付与され多用されたようである<sup>3)</sup>。このことから、国司が扇を使用して、この世に出現する霊や神を慰めたり鎮めたりするための祭り、地面を掘り下げた穴、神の通路と籠もり場を塞がず、聖地に変えるという祭り(道饗祭、鎮火祭、大祓、臨時祭の名神祭、止雨祈願<sup>4)</sup>等)を行っていたとも考えられる。

石川県寺家遺跡、静岡県伊場遺跡は国府ではないが、両遺跡に共通している点は、海に面した内湾近くにあり、交通の要所にあるという点にある。以下に、国府とは性格の異なる遺跡からの扇出土例と、扇が出土した遺跡の性格について記述する。

伊場遺跡は全国で最も多く木簡が出土し、「百怪呪符」「急々如律令」と記した呪符木簡が出土しており、畿外においても広い範囲に律令的祭祀が広まっていたことが知られる(森 2013)。伊場遺跡は7世紀後半に渕評(ふちのこおり)の役所がおかれ、8世紀から10世紀にはその後身の遠江国敷智郡の郡家(郡役所)であったと考えられており、持統天皇三年の放生会木簡が出土している。伊場遺跡からは木簡 108 点、墨書土器 400 点が出土し、唐三彩陶枕等の逸品が出土している。遠江国の国府は磐田市に比定されており、その国府に近い位置に伊場遺跡は位置している。持統天皇三年の放生会は持統天皇ゆかりの王領に限られたものと考えられており、渕評が王領支配の「実験農場」で、遠江国が律令制地方政治の模範国と位置づけられていたと考えられている。10世紀代になると国府は構造上大きく変化したり移転したりし、それまで存続してきた郡家は廃絶する傾向が認められる。そして、在地の実質的支配は郡家を拠点としたものから国府を中心とした方式へ、また、国庁から国司館を中心とする行政へと大きく転換していく。それとともに、8世紀以降に生まれてきた都市的萌芽も、独自の経済基盤を持たず、その地域に根付いたものでなかったために、10世紀ごろに断絶または転換期を迎えており、従来の形のままで中世都市への発展をたどることはなかったと考えられている。

寺家遺跡では扇は遺跡北の溝からの出土である。この遺跡からは赤彩のある墨書土器、鏡、銅鈴などの祭祀遺物、火を使った祭祀遺構等、祭祀に関係するものが多く検出されている。気多神社政庁から気多神宮寺へ、神祇信仰から神仏習合への足跡が辿れる。古代律令国家から権門勢家が権力を握った古典的貴族国家に変質する時代と重なって、気多神社自信も神祇制度末端の律令的官社としての性格から、位田や神封等の領民を抱えて在地領主化の道を辿り始める歴史的な変換点が、寺家遺跡の変容の背景にある。律令的祭祀の終焉と、中世的な神仏習合が始まる時代である 5 と考えられている。

山形県米沢市古志田東遺跡からは運河から扇が出土している。この遺跡は9世紀中葉前後に成立し、10世紀代に入ると機能を失った在地豪族の屋敷跡と考えられているが、大浦B遺跡の郡衙が9世紀前半に移転しようとしていた時期に、官衙をはるかに凌ぐ豪族屋敷の建設が行われていたと考えられている。屋敷周辺では、水田の開墾と併行して運河を整備、管理し交易を行うとともに、屋敷の一端には工人を集めて木製品等を工房内で作らせている。呪術絵等の墨書土器や木簡から、広域な交流や文書業務、祭祀等を恒久的に実施していたと考えられている。9世紀後半から10世紀初頭の社会情勢は、律令国家が衰退する中で地方豪族や有力者が台頭し、自らの支配基盤を拡大する過度期にあたっており、古志田東遺跡はまさに、この時代を象徴するもの(米沢市教育委員会2001)と考えられている。

新潟県田伏山崎遺跡では、自然流路の蛇行部から扇子の骨が1本と頸部を打ち欠いた墨書のある壺、 八稜鏡とともに出土している。鏡は古代の国府から多く出土すると判断されている。また、同遺跡か らは6世紀後半の土師器の内面を黒色処理したものが出土し、水に関係する祭祀が連綿と受け継がれ ていく様子がうかがえる。

新潟県山岸遺跡では東・東南・南方向から湧水する地に、古墳時代後期には黒色土器が出土しており、おそらく古墳時代後期から水に関する祭祀が始まり、12~14世紀には湧水域に庭園遺構を伴う大型建物が建てられ、扇を多く使用する祭祀が行われている。

上記のように、水に関する祭祀は古墳時代から室町時代まで湧水域において連綿と行われ続けてい く傾向が見られる。扇祭祀を行った扇の所有者が、貴族以外では、国司、保司、荘園領主、守護・地 頭と変わっていくことは、有力者が時代とともに変わっていくこととリンクしているようである。興 福地遺跡周辺は伊勢神宮領「中河御厨」に比定されていること、「興福寺」に関連する可能性から推定すると荘園領主クラスが関連していると考えられないだろうか。扇を使用した祭りを地域の有力者が行っていたとしたら、それはどういったものであっただろうか。次に想定できる祭祀をあげてみた。

#### 扇を使用する祭祀とは一白と黒のセットをヒントにして一

「扇」は『延喜式』の祭料(幣帛)リスト(西宮 2004)にはあがってこないが、神仏に納めた例がある。松江市佐多神社に納められた檜扇(吉野 1970)や、京都東寺の千手観音像腕に納められた檜扇(宮脇 2008)、厳島神社の五骨の蝙蝠扇は高倉天皇の御寄進という社伝をもち、経塚の経筒に扇子が納められた例があり、嵯峨の清涼寺に伝わる地蔵像の胎内には細骨七骨の蝙蝠扇が納入されている。現在でも伊勢神宮の御田植祭では大扇を、熊野神社の扇祭にも大扇を使用している(中村 1983)。

扇には呪力があり <sup>6</sup>、「祓い」に使われたと考えられる。報告書を見ながら扇を集成していて気付いたことであるが、木製品、特に形代が多く出土する遺構には必ずといっていいほど櫛 <sup>7</sup>が出土している。櫛は多く出土するのに扇はほとんど出てこないという印象を受けた。扇は数が限られているということであろう。扇も櫛も男性の象徴を表し、「水」、「女」を意味するところに捧げられるのである。

興福地遺跡 SE3 のそばの SK10 からは完形の山茶碗が2点口縁部を上にして出土している(図1参照)。2つの内の一つは内外面に故意に煤を付着させており、白と黒のセットになっている。白と黒で思い浮かぶのは陰と陽であったが、吉野裕子氏によると、陰と陽は色であらわすと「黒」と「赤」であった(吉野1974)。陰が黒で、陽が赤である。黒と赤は縄文時代から祭りに関するものに使用されてきた色である。今回の集成で扇に伴って出土した彩色のある土器は赤彩土器と黒色土器がある。黒色土器には、徳島県黒谷川宮ノ前遺跡出土のものなど土師器の内外面にヘラミガキをほどこしたものと、高槻市嶋上郡衙跡、新潟県一之口遺跡や興福地遺跡のように土師器や山茶碗の内外面に故意に煤を付着させたものとがある。

島根県出雲市三田谷 I 遺跡では、湧水坑と、湧水が流れでる溝 SD06 から内外面に赤彩を施した土師器が出土し、奈良時代のものに多く赤彩がみられる(島根県教育委員会 2000)。富山県高岡市中保B遺跡の7世紀中頃から9世紀中頃の遺物が出土する豪族層居宅近くの水路 SD01 からは、赤彩土器と内面黒色土器が出土している。中保B遺跡の赤彩土器は8世紀から9世紀代のものが主体で、内面黒色土器は概ね9世紀代以降のものが多く出土する傾向にある。同遺構からは暗文土器も出土している(高岡市教育委員会 2002)。徳島県観音寺遺跡の自然流路 SR3001 からは8世紀後半から9世紀前半の層から内外面赤彩土師器が、9世紀から10世紀の層から黒色土器が出土している。黒谷川宮ノ前遺跡の自然流路 SR1001 の9~11 世紀の層からは赤彩土師器と黒色土器が出土している。赤と黒の両方の彩色の土器が出土している例は少ないが、中保遺跡の例から考えると、水に関する祭祀で赤色を使用するのは9世紀代以前に多く、黒色を使用するのは9世紀代以降に多いのかもしれない。

興福地遺跡の扇が出土した SE3 からは、煤を故意に付着させた山茶碗が、祭りに使用された土器として出土している。同じようにいぶされた黒色土器が出土しているのは嶋上郡衙跡などがある。故意に黒色にした土器は祭祀に使用されていることが多く報告されているが、黒色土器のみが祭祀に使用されたのではなく、黒色の土器とそうでない土器、白と黒のセットで、二色の調和から自然の秩序が

保たれることを願う祭祀を行っている可能性が考えられる。嶋上郡衙跡では、墨書のある合わせ口の土師器皿が出土した井戸から、黒色土器が出土しているが、「黒色土器Bの手法・形態を有しながら、いぶされていないと思われる灰褐色系統の土器片が14点検出されており注意をひく。」(高槻市教育委員会1981)とある。このように、同じ遺構から黒色のものとそうではないものがセットで出土している例が、市川橋遺跡や山王遺跡の河川跡や井戸から、山形県大坪遺跡の井戸から、秋田県厨川谷地遺跡の湧水点の祭祀場などから出土している。厨川谷地遺跡の祭祀場からは墨書土器、黒色土器、打ち欠きのある土器、桃の種、ヒョウタンが出土し、これらは湧水の祭祀に使用された道具で、同様のものが興福地遺跡SE3からも出土している。今回はヘラミガキのある黒色土器と、いぶされて黒くなった黒色土器を区別して一覧表には入力していない。報告書に記載されている内容で記入している。

遺跡の発掘調査で検出された水辺の祭祀でみえる色は「赤」、「黒」、「白と黒」である。「赤」は「水」の「陰」に対して「火」、「陽」の赤を祀ったと考えられる。「黒」は「水」に対して水そのものの黒を祀ったものと考えられる。「白と黒」は「太一」と「天」に祀ったものと考えられる<sup>8</sup>。「赤」と「黒」は奈良時代に多く、「白と黒」は平安時代後半から鎌倉時代に多いように思われる。

「赤と黒→火と水→陽と陰→陰陽統合体→太極(太一)」(吉野 1999)から考えると、「赤」、「白と黒」は、「1 国家の安寧と秩序、2 自然の順当な循環、およびそれによってもたらされる年穀の実りを祈るもの」(吉野 1984)であると考えられる。

平安京右京三条一坊六・七町跡―西三条第(百花亭)跡ーからは「太一」の墨書土器が出土している。この墨書は灰釉陶器底部中央に墨書されており、池 250 第 2 層から出土している。池 250 からは扇も出土している。このことは、扇を使用する祭祀を行っていた時期に、「太一」の思想が存在していたことを示しているといえよう。

#### 井戸の「まなこ」出土遺跡について

興福地遺跡において、扇子の骨が出土した井戸の上層からは、埋井の祭祀で使用した道具がまとめて投棄された状況で出土している(図2参照)。平安時代末から鎌倉時代初頭の山茶碗と、青磁、白磁、ロクロ土師器、土師器皿、斎串、板状木製品、下駄、手押木、笊などが出土している。山茶碗はほぼ完形の碗が23点、小碗が2点、皿が6点、小型片口壺が1点出土し、これらのうち口縁部を故意に打ち欠いているものが10点、内外面に故意に煤を付着させているもの9点、墨書のあるものが5点ある。また、「小型片口壺は美濃須衛産の特注品で、口縁部を故意に打ち欠いていることから、神が使用するために準備されたと考え、井戸の「まなこ」と考えられる」と帝塚山大学教授宇野隆夫氏からご教示いただいた(図3参照)。奈良県橿原遺跡の発掘調査で井戸が多く検出され、「居合わせた見物人の一人は「まなこ」が出たからこの井戸の底だと云つていたので、少し追究をしてみる。伊勢の人であって、その地方には井戸の底に「まなこ」と云つて、桶・壺・竹で編んだ笊状のものを入れると云う。それは旱魃になればそれに従って掘り下げるためだとも云う。そして井戸を埋めるときには必ず「まなこ」を取り上げなければ崇ると云う。」(奈良県教育委員会1961)と記載している。

上記の民俗例から考えると「まなこ」は井戸の神様の住まい、拠り所と考えられる。「まなこ」という言葉はどのような漢字をあてるのかは不明であるが、古語ではないかと思われる。注に記載した内容から想定すると井戸の神は女性で、その神の住まい「まなこ」に、もし漢字をあてるとしたら「真

魚壺」といったところであろうか<sup>9)</sup>。

井戸の「まなこ」出土遺跡の集成を、扇出土遺跡の集成と同時に進めてきた。奈良県橿原遺跡の例のように、井戸底に曲物が据えられる「まなこ」の例もあるが、今回の集成は、興福地遺跡で口縁部を故意に打ち欠いた小型片口壺が出土している様子に近い例を集成しようと、井戸から完形に近い壺が出土した例を集成している。このため、出土状況写真や遺構図で壺の出土状況が確認できる例のみの集成である。井戸の「まなこ」が出土する遺跡も扇が出土する遺跡の性格と類似している可能性が高いように思う。

井戸から出土する壺は、井戸の底位から出土する例と、中位から出土する例と、上位から出土する 例がある。また、壺は完形のものと、一部を故意に打ち欠いている例がある(表 11、12 参照)。

滋賀県中畑遺跡 II からは8世紀後半から11世紀後半にかけての井戸祭祀を確認できた井戸がある。その中のSE4からは口縁部を打ち欠いた須恵器双耳壺が出土しており、この壺がまなこである可能性が考えられる。この井戸は8世紀末に埋め戻されたと考えられている。この遺跡の埋井の祭祀は6例あり、7世紀中や8世紀末に埋められた井戸からは口縁部を打ち欠いた須恵器が出土し、10世紀に埋められた井戸からは完形の土師器坏が出土し、11世紀に埋められた井戸からは黒色土器と土師器皿が出土しており、埋井祭祀に使用された道具の時期差がみられる。

中畑遺跡の例をみると、まなこを使用するのは古い祭祀方法で、黒色土器を使用するのは新しい祭祀方法といえるかもしれない。興福地遺跡では、新古両形態が合わさったものといえるようである。

#### おわりに

興福地遺跡の鎌倉時代に埋められた井戸から出土した扇を発端として、扇が出土している遺構と遺跡の性格を追い、祭祀に関する文献を読んできた。すべての遺跡を抽出できているわけではなく、文献も読み足りないものがあるかとは思うが、現段階で少し見えてきたものがある。

扇には呪力があると信じられ、国家の安寧と秩序、自然の順当な循環、およびそれによってもたらされる年穀の実りを祈る祭りに使用されている。扇はそれを所持し使用する人が限られておりそのため出土例が限られている。扇が出土する遺跡は扇を所有できた人が扇を使用して祭祀を行ったことを示し、それは奈良時代から鎌倉時代まで連綿と受け継がれているといえるのではないだろうか。

興福地遺跡における 12 世紀初頭に位置付く扇を使用する祭祀は、神々の世界とこの世との接点である井戸で行われた祭祀であり、その祭祀具は扇とともに「白と黒」の土器を使用して「太一」と「天」を祀り、併せて埋井の祭祀には古式の祭祀具である「まなこ」を用いる。このような用具を伴う祭祀を行い得る階層は、集成した事例をもとに推定すると、荘園領主クラスが想定でき、興福地遺跡はその屋敷跡とその周辺施設と考えられるのではないだろうか。

#### 注

1)「井戸は、地上から地下深く掘鑿され、この世とカミの住まう地下他界とを直接結ぶ中空構造物という意味では、これ以上 の見本をないというほど、典型的な通路であった。(中略)井戸を埋めるということは、どのような代替手段を講じても、 基本的にはカミの通路と籠り場を塞ぐことを意味する。(中略)古来、わが国では、カミの世界(異界)にも戻れず、この 世にも戻れず、カミの世界とこの世との境界でさまようカミ(霊魂)は、悪霊や鬼神、妖怪となって、この世に生きる人々 に災異をおよぼすと信じられてきた。このため、人々は井戸を埋めるとき、井戸の中にカミが閉じこめられることを大変恐れた。」(秋田 2002)

- 2)「谷川の岸の流れ、橋のたもと、路の辻は、いずれもこの世とあの世との接点であったということができる。(中略)辻は、 死者の霊があの世・他界に行くための入口として意識されていたといえる。換言するならば、辻は様々な霊の集まる場所で あり、あの世の入口として霊が閉じこめられたり、移動している地域だと思われていたのである。(中略)辻という場所に おいては、この世に出現する霊や神を慰めたり鎮めたりするための祭りが行われた。(中略)古代末から中世初めにかけて 辻での祭が多く見られるようになる。(中略)支配者の側が主体となり、辻祭と同じような意味を持った祭礼が道饗祭(み ちあえのまつり)である。(中略)天下に疫病がある時に、京城、もしくは皇居の四隅でこの祭りを行っている。(中略) この道饗祭を『古事類苑』は、(中略)京城の四隅で疫神を祭るのを四角祭、国の四境で疫神を祭るのを四境祭と称すると いうのである。(中略)起源は文武天皇の『大宝令』に見え始め、王朝時代はもとより、鎌倉幕府に於いてもまたこれが行 われた(延喜式、吾妻鏡)。(中略)こうして災いをもたらす神や霊などを、都城の中に入れまいとする国家的な呪術行為 が道饗祭であった。(中略)山や川、沢、谷、海などは、それ自体が神々の世界とこの世との接点になるものとして意識されていた。」(笹本 2003)。
- 3)「各国の国司に任されたと推定されるものとして、神社修理や山・川等の自然神への祈願が挙げられる。8世紀段階では、 道饗祭、鎮火祭、大祓など、都城で行われていた神祇祭祀が、国衙でも国司の手で臨時に実行されていた。9世紀段階では、 臨時祭の名神祭に色々な機能(祈雨、疫病、豊稔祈願等)が付与され多用された。畿外では畿内近辺の重要地や七道の重要 地、対蝦夷関係のためか陸奥国が多いようである。」(西宮 2004)
- 4)「年代の分かる最も古い絵馬は、平城京左京二条二坊五坪南を東西に通る、二条大路の北側溝の南で検出された溝から出土したものである。ここは長屋王邸の東北に近接した地にあたる。この絵馬は、搬出した木簡が天平八年 (736) から同十年の間のものであることから、同じ時期のものと考えられている。馬の体部には丹が塗られ、止雨の祈願に使われたものである。他に桧扇、曲物、挽物などの木製品が大量に出土し、人形、鳥形、斎串なども含まれているが、祭祀具の割合は低い。天平八年十一月十九日の記事に、秋の収穫が著しく損害を受けたので田租を免ずることが見える。あるいはこの時のことかもしれない。」 (森 2013)
- 5)「748年には越中国司の大伴家持が、能登巡行に際して「気多神宮」に参拝している。渤海との交易や、東北に向かう基地として重要な位置を占め、気多神は能登を代表する神になっていた。平安時代初めの804年には、希望者が多い宮司の任命は神祇官が関与する事となった。また、855には気多神宮寺に三名の僧が公認され、868年には清和天皇の病気平癒祈願のために能登国司が僧に金剛般若経を気多神社で読ませている。9世紀代のシャコデ廃寺や寺家遺跡では、大型の建物跡が発掘されており、文献資料に残る気多神社の隆盛ぶりを証明している。」(石川県立埋蔵文化財センター1988)
- 6)「なぜ蒲葵(びろう)が扇の起源と推測されたのか。一口にいえば、出雲の美保神社に古く伝わるお祭り、蒼柴垣神事に重用される「長形の扇」が蒲葵そっくりだったからである。(中略)沖縄において蒲葵は御嶽(うたき)の神木となっている。御嶽というのは本土の神社に相当する神の祭祀処である。もし、御嶽の神木、蒲葵を真似して扇がつくられたとしたならば、なぜそういうことをしなければならなかったのか。(中略)ビロウを御嶽(日本の神社の祖型と考えられる神霊祭祀の場所)の神木とされている。したがってビロウの生の葉は威力がもっとも強く、「祓い」につかわれる。重要な祭儀には不可欠である。(中略)檜扇はその模倣した樹木、あるいはその葉のもつ神性、呪物性を抽出した模造の葉である。呪力はその模倣としたもとの葉にあるのだから、忠実にその葉を真似るだけでよかった。それで呪物になり得たのである。(中略)人間の生誕は女だけでは起こりえない。もし御嶽の形が女陰を象るものならばそこにはかならず男性を象るものがなければならないだろう。御嶽における男性の象徴がほかならぬ蒲葵だと思われる。」(吉野 1970)

7) 「古くは櫛は縦櫛が多く、形が蛇の頭部に相似だったので、同じく蛇に似た古代の箸とともに、蛇相似の呪物として古典の中に登場する。一方、女性の髪は、長いものということで蛇に見立てられ、髪に櫛を挿すことは、祖霊の蛇と同化することであった。」(吉野 2005)

「世界各原始民俗は蛇を祖先神として崇拝した。そのもっとも根源的な理由を私は次の三点にしぼって考えてきた。

- 1 外形が男根相似(生命の源)
- 2 脱皮による生命の更新 (永遠の生命体)
- 3 一撃にして敵を仆す毒の強さ (無敵の強さ) (吉野 2005)
- 8) 赤、白、黒に関係する記述には次のものがある

「古来、祈雨祈晴に黒馬・白馬が神社に奉献されたが、生きた馬の代わりに、板に描かれた馬が納められるようになり、それが絵馬の起源となっている。(中略)「雨を降らせて下さい」と神に祈るときには黒馬が捧げられ、「雨をやめ、お天気にして下さい」と祈る場合には白馬が供献された。(中略)『続日本紀』宝亀元年八月条に、「日蝕有り。・・・・・幣帛及び赤毛の馬二疋を、伊勢の太神宮に奉らしまる。」とみえる。火気の相乗作用が期待出来る赤馬が、日蝕に際し、衰えた太陽の復活を祈求する呪物として、神に捧げられたのである。」(吉野 2005)

「弥生時代前期の土坑だけでなく、弥生時代中期中葉以降の「井戸」、さらには律令時代以降の井戸からも炭や灰が数多く 検出されている。現在でもカミマツリに火は使われており、カミマツリに火が重要な意味をもっていたことを示唆している。 「井戸」や「井戸」以外の遺構から出土する木器のなかにも、火の痕跡があるものもあり、さまざまな場面で火を使用した ことが知られる。火は木や鉄、悪霊をも焼きつくし、日本人がもっとも重視する清浄をもたらす強い霊力をもっていた。こ のため人びとは、カミマツリには必ず火を使用し、穢れを祓ったのである。炭や灰も火に関係しているので、霊力を認めて 土坑や「井戸」に投入したことは疑いえない。」(秋本 2010)

「陰陽五行説とは簡単にいえば、宇宙間における森羅万象を、陰と陽の関係において据えようとする二元論であって、天象には太陽(日)と太陰(月)の二元があり、人象には男女両性がある。この陰陽が互いに交感・混合して万物は生成化育・栄枯盛衰をくりかえす、というのである。最重要な二元対立は女と男で、陰陽といえば女と男の同義語でさえある。」(吉野 1974)

「陰陽思想によれば、「陰」と「陽」はその本性を全く異にし、相対する二元である。たとえば、

- 「陽」 天・剛・動・有・男
- ・「陰」 地・柔・静・無・女 の如くである。」(吉野 2005)

「中国哲学の根本にあるものは、天地同根の思想であって、元来、同根の天と地は離れてはならない。天地・陰陽は互いに 交感しあってこそ、万物は生じ、五行の輪廻によって万物は永生を保証されるのである。」(吉野 2005)

「五行でいえば、赤は火・陽、黒は水・陰を意味するから、紫は陰・陽を一つにした太極・太一の象徴となる。」(吉野 2005) 「黒色によって象徴されるものは、冬、北、夜、暗黒であって、物の生命が妊まれ、萌す暗黒の胎内でもある。」(吉野 2005) 「十二支では「子」は正北・冬至。五行では「水」。以上を綜合すると「子」とは、

混沌=太極=北=冬=水=陰陽混沌=中央

ということになる。」(吉野 1999)

「沖縄先島地方の豊年祭りアカマタ・クロマタの祭事では、水と火か祭りの主導権を持つ。「クロ」は北・陰・女、「アカ」は南・陽・男の理論をとってクロマタを女神、アカマタを男神としている。陰陽の交合は水を招び、それによって稲の豊作もまた期待できる。「性」は日本古代信仰の基本に据えられているものであるが、それを陰陽五行思想の導入によって理論化し、呪術の効果を更にたかめようとしている。その意図がこの祭りにも十分にうかがわれる。」(吉野 1974)

「赤は火で陽、黒は水で陰、となるから赤黒のワンセットとして出現するアカマタ・クロマタは、水火・陰陽の統合体である。陰陽二元の統合体とは、原初唯一絶対の一元的存在としての「混沌」、易でいう「太極」の具象化であって、これは沖縄の信仰におけるニライの本質と一致する。(中略)更には火は日照、水は降雨に還元されるからアカマタ・クロマタのワンセットは日照降雨のバランスを象どる神でもあって、正に豊年を招く神である。アカマタ・クロマタは豊年祭にもっともふさわしい祭神なのである。」(吉野 2005)

「「水」と「火」の象徴するものは「五行説図表」でみられるように、

水=陰(女)・北・黒・冬・(十二支の)子(ね)

火=陽(男)・南・赤・夏・(十二支の)午(うま)

である。| (吉野 1974)

「日本の祭祀の多くの場合、1 国家の安寧と秩序、2 自然の順当な循環、およびそれによってもたらされる年穀の実りを祈るものである。」(吉野 1984)

「三重県多気郡明和町の斎王宮跡からは、径 25cm、深さ 30cm の穴から黒と白の丸い海石がぎっしりつまって出土している。 伊勢神宮の祭祀には中国哲学が根強く入っており、白色の象徴するものは北一白坎宮 (「太一」の居所) 水気、および西北 六白乾宮金気であり、黒色の象徴するものは五行における北の子 (ね) で北辰を意味する。西北六白の象徴するものの主要 なものは、乾坤の乾、つまり天であり、太陽である。そうして円いものであり、乾は堅に通じるところから固い石である。 そこで以上を綜合するとこの遺跡の中で、白と黒の円い石のつまった穴 (坎) の上は、おそらく斎王宮内でもっとも神聖な 神座であったに相違なく、そこは「太一」の居所であると同時に、日月星辰の集中する天であったと思われる。」 (吉野 1975) 9) 「まなこ」という言語に関係する記述には次のものがある。

「「マ」は、古語の時代から見られる「真結び・まむずび」「真草・まくさ」「真砂・まさご」「真玉・またま」などの「真」と思われる。「ナ」が「魚」を意味した時代は『万葉集』以前である。「コ」や「ゴ」は、「小」や「粉」の意味で、「こまかく」「こな状」になったことを意味する。「コ」や「ゴ」の音は「ク」や「グ」に変化する。言葉の発生順序に関してはどちらが先かは分からない。因みに『広辞苑』は「ク(処)」は「住みか」の「カ」や「都」の「コ」の語源で、「ところ(処)」の意味であると解説している。」(具志堅 2006)

「吉野仙拓枝(やまひとつみのえ)伝説は白川静氏の説によると、桑は聖なる木であり、<u>魚は女性の隠喩</u>、梁はその魚を捕まえる施設となりますので、水辺が陰陽結合の場であったことを物語るのでしょう。」(金子 2005)

「まな板は真魚板と書かれるように、本来は真魚箸(まなばし)と呼ばれる丈の長い箸を使って儀式用の魚を料理するため に用いられたもの」 (秋田 2010)

「「古代においては「まつり」の対象は一定した場所ではなく、山、沼、海中の島、峠など種々さまざまで、自然の神霊の宿るすべてのものが目標として行われた。磐や木や葉にも<u>霊質(マナ)</u>があり、アニミズムの時代でもあった。」(甲斐 2013) 「『丹後国風土記』逸文に、比治山の頂きにある真奈井と呼ばれる井泉に現れた乙女の話があります。<u>真奈井</u>は「聖なる井泉」という意味で、神意が現れる神聖な場にある井泉が真奈井なのです。出雲地方に井泉を祀るとみられる神社が『延喜式』に散見され、国府のある意宇郡には真名井神社があげられます。」(辰巳 2005)

「日本書紀上巻の瑞珠盟約に「<u>天真名井</u>(あまのまなゐ)が出てきます。井戸が男女会合の場であり、井戸における祭儀には誓約もあります。井戸は陰陽が結合する場、エネルギーに満ちた場とすると同じことは水辺にも云えます。流れにおける祭儀になるでしょうか。神話では井戸には御井神があり、<u>罔象女神(みずはのめのかみ)(弥都波能売神)</u>が護るといいます。」(金子 2005)

「島根県三田谷 I 遺跡からは「麻奈井」の墨書がある土器が出土している。この墨書土器は岩盤の堀込から湧水した水が流

れる溝から出土している。」(島根県教育委員会 2000)

「古代人は壺や甕などの容器には、霊をこめそれを殖やす強い力があると信じた。古代人は<u>壺</u>など容器には霊がこもるだけでなく、容器自体を神聖視したのであり、小孔の有無は問題ではあるまい。この思想は、律令制度の成立に左右することなく、生き続けたのである。」(金子 1996)

#### 〈引用・参考文献〉

秋田裕毅 2002 『下駄』神のはきもの ものと人間の文化史 104

秋田裕毅 2010『井戸』 ものと人間の文化史 150

伊東隆夫、山田昌久 2012『木の考古学』出土木製品用材データベース

甲斐弓子 2013「鎮めと除災歳時記」『鎮めとまじないの考古学』上 -古代人の心-

金子裕之 1996「壺と霊」『まじないの世界』 I (縄文~古代) 日本の美術第 360 号

金子裕之2005「令制下の水とまつり」『水と祭祀の考古学』

具志堅敏行 2006 『古代琉球語の旅』

笹本正治 2003 『辻の世界』 --歴史民俗学的考察--

静岡県 1994『静岡県史』通史編 1 原始·古代

島根県教育委員会 2000『三田谷 I 遺跡』(Vol. 2)

中村清兄 1983『扇と扇絵』日本の美と教養 23

奈良県教育委員会 1961『橿原』

奈良国立文化財研究所 1985『木器集成図録』近畿古代篇 奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊

西宮秀紀 2004『律令国家と神祇祇祭祀制度の研究』『水と祭祀の考古学』

辰巳和弘 2005「常世・女・井」 - 神話の土壌-

宮脇祥三2008「扇子―その歴史から扱い方まで」『扇子』NHK「美の壺」

森郁夫 2013「自然災害と鎮め」『鎮めとまじないの考古学』下 - 鎮壇具からみる古代-

吉野裕子 1970『扇』 (ただし、『吉野裕子全集』第1巻 2007 所収のもの)

吉野裕子 1974『日本古代呪術』(ただし、『吉野裕子全集』第2巻 2007 所収のもの)

吉野裕子 1975 『隠された神々』 (ただし、『吉野裕子全集』第2巻 2007 所収のもの)

吉野裕子 1984 『易と日本の祭祀』(ただし、『吉野裕子全集』第6巻 2007 所収のもの)

吉野裕子 1999『易・五行と源氏の世界』(ただし、『吉野裕子全集』第11巻 2008 所収のもの)

吉野裕子 2005『古代日本の女性天皇』 (ただし、『吉野裕子全集』第 12 巻 2008 所収のもの)

#### 〈表の引用・参考文献〉 50 音順 先頭の番号は表の文献番号に対応

- 1 秋田県教育委員会 1999『払田柵跡Ⅱ』 区画施設-秋田県文化財調査報告書第 289 集
- 2 秋田県埋蔵文化財センター2005『厨川谷地遺跡』秋田県文化財調査報告書第383集
- 3 秋田県埋蔵文化財センター2006『樋口遺跡』秋田県文化財調査報告書第 411 集
- 4 穴水町教育委員会 1980『西川島』 I 穴水盆地における中世遺跡群の調査
- 5 穴水町教育委員会 1981『西川島』Ⅱ美麻奈比古神社前遺跡・古代中世編
- 6 穴水町教育委員会 1987『西川島』能登における中世村落の発掘調査
- 7 穴水町教育委員会 1997 『美麻奈比古神社前遺跡』
- 8 石川県立埋蔵文化財センター1986『寺家遺跡発掘調査報告 I』 能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書
- 9 石川県立埋蔵文化財センター1988『寺家遺跡発掘調査報告Ⅱ』能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書
- 10 石川県立埋蔵文化財センター1997『寺家遺跡』県営ほ場整備事業羽咋西部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
- 11 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995『志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書』―関遊水地事業関連発掘調

查 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 216 集

- 12 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995『柳之御所跡』—関遊水地・平泉バイパス建設関連第 21・23・28・31 ・36・41 次発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 228 集
- 13 岩手県教育委員会 2000『柳之御所遺跡』第 50 次発掘調査概報岩手県文化財調査報告書第 107 集
- 14 岩手県教育委員会 2001『柳之御所遺跡』第52次発掘調査概報岩手県文化財調査報告書第111集
- 15 岩手県教育委員会 2003『柳之御所遺跡』第 56 次発掘調査概報岩手県文化財調査報告書第 117 集
- 16 岩手県教育委員会 2004『柳之御所遺跡』第57次発掘調査概報岩手県文化財調査報告書第118集
- 17 いわき市教育委員会 2001 『荒田目条里遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告書第 75 冊
- 18 大阪府教育委員会 1981『大蔵司遺跡発掘調査概要』 浦堂地区 C 地点の調査 -
- 19 大島町教育委員会 1995『富山県大島町 北高木遺跡発掘調査報告書』
- 20 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター1993『鹿田遺跡』 3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊
- 21 香川県教育委員会 2000 『鴨部・川田遺跡Ⅱ』 高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊
- 22 鹿児島県立埋蔵文化財センター2002『小倉畑遺跡』
- 23 神奈川県立埋蔵文化財センター1986『千葉地東遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告10
- 24 金沢市教育委員会 1991『金沢市千木ヤシキダ遺跡』Ⅱ
- 25 金沢市埋蔵文化財センター1999『金沢市磯部カンダ遺跡』
- 26 金沢市教育委員会 2000『戸水遺跡群Ⅱ 戸水大西遺跡Ⅰ』 金沢市文化財紀要 160
- 27 岐阜県文化財保護センター2015『興福地遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第132集
- 28 神戸市教育委員会 2001『御蔵遺跡第4・6・14・32 次発掘調査報告書』御管西地区震災復興土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 29 御殿・二之宮遺跡調査会 1995『御殿・二之宮遺跡 第6次発掘調査報告書』
- 30 財団法人愛知県埋蔵文化財センター1994『清洲城下町遺跡IV』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集
- 31 財団法人石川県埋蔵文化財センター2003『金沢市 戸水 C 遺跡・戸水 C 古墳群(第11・12次)』
- 32 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 92 集
- 33 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1982『鳥羽離宮跡調査概要』
- 34 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013『平安京右京三条一坊六・七町跡—西三条第(百花亭)跡—』京都市埋蔵文化財研 究所発掘調査報告 2011-9
- 35 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター2001 『西鴨地遺跡』四国横断自動車道(伊野〜須崎間)建設に伴う埋蔵文化 財発掘調査報告書
- 36 財団法人浜松市文化協会 2002『梶子北(三永)・中村遺跡』―井戸・木製品編―
- 37 財団法人浜松市文化協会 2005『中村遺跡』—遺構本文編—
- 38 財団法人浜松市文化振興財団 2006『中村遺跡』―古墳・奈良時代編―
- 39 財団法人浜松市文化振興財団 2006『中村遺跡』—中世編—
- 40 財団法人東大阪市文化財協会 1997『水走遺跡第3次・鬼虎川遺跡第21次発掘調査報告』
- 41 財団法人山形県埋蔵文化財センター1995『大坪遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第23集
- 42 財団法人山形県埋蔵文化財センター2001『志戸田縄遺跡第2・3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告

書第 92 集

- 43 滋賀県教育委員会 1987『矢倉口遺跡発掘調査報告書』―国道1号京滋バイパス関連遺跡発掘調査報告書第3冊―
- 44 滋賀県教育委員会 1994『北萱遺跡発掘調査報告書』 一草津川改修事業に伴う発掘調査報告書―
- 45 滋賀県教育委員会 2005『中畑遺跡Ⅱ』草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告Ⅲ
- 46 島根県教育委員会 2000 『三田谷 I 遺跡』 Vol. 2 斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告₩
- 47 島根県教育委員会 2000 『三田谷 I 遺跡』 Vol. 3 斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告IX
- 48 島根県教育委員会 2004 『史跡出雲国府跡』 2 風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 15
- 49 島根県教育委員会 2008 『史跡出雲国府跡』 5 風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 18
- 50 島根県教育委員会 2009『史跡出雲国府跡』-6-風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 19
- 51 上越市教育委員会 2009『子安遺跡』
- 52 高岡市教育委員会 2002 『中保B遺跡調査報告』 高岡市埋蔵文化財調査報告第8冊
- 53 多賀城市教育委員会 2003 『市川橋遺跡』 多賀城市文化財調査報告書第 70 集
- 54 多賀城市教育委員会 2004 『市川橋遺跡』 多賀城市文化財調査報告書第 75 集
- 55 高槻市教育委員会 1981『嶋上郡衙跡発掘調査概要』 5 高槻市文化財調査概要
- 56 徳島県教育委員会 1995『黒谷川宮ノ前遺跡』四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 9
- 57 徳島県教育委員会 2006『観音寺遺跡Ⅱ』(観音寺遺跡木器篇) 一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発 掘調査 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 68 集
- 58 徳島県教育委員会 2007『観音寺遺跡IV』 道路改築事業 (徳島環状線国府工区) 関連埋蔵文化財発掘調査報告書 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 71 集
- 59 徳島県教育委員会 2008『観音寺遺跡V』道路改築事業 (徳島環状線国府工区) 関連埋蔵文化財発掘調査報告書 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 75 集
- 60 中条町教育委員会 1999『中倉遺跡』 3次
- 61 中条町教育委員会 2001『船戸桜田遺跡 2 次調査』
- 62 奈良県教育委員会 1961『橿原』
- 63 奈良県教育委員会 1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告』-長屋王邸・藤原麻呂邸の調査-
- 64 奈良国立文化財研究所 1974『平城宮発掘調査報告』 VI 平城京左京一条三坊の調査
- 65 奈良国立文化財研究所 1982『平城京発掘調査報告』XI第1次大極殿地域の調査
- 66 奈良国立文化財研究所 1989 『平城宮八条一坊十三·十四坪発掘調査報告』 奈良国立文化財研究所学報第 46 冊
- 67 奈良市教育委員会 1980『奈良市埋蔵文化財調査報告書』 昭和 54 年度 -
- 68 奈良市教育委員会 1984 『平城京左京二条二坊十二坪』奈良市水道局庁舎建設地発掘調査概要報告
- 69 新潟県教育委員会 1994『上越市春日·木田地区発掘調査報告書IV 一之口遺跡東地区』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 60 隹
- 70 新潟県教育委員会 1999『牛道遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 91 集
- 71 新潟県教育委員会 2006『一般国道白根バイパス関係発掘調査報告書 浦廻遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 126 集
- 72 新潟県豊浦町教育委員会 1981『曽根遺跡』 I
- 73 新潟県教育委員会 2006『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XⅥ 野中土手付遺跡・砂山中道下遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第164集

- 74 新潟県教育委員会 2008『北陸新幹線関係発掘調査報告書WI 姫御前遺跡 I 』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 184 集
- 75 新潟県教育委員会 2008『一般国道 116 号 出雲崎バイパス関係発掘調査報告書VI 寺前遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 189 集
- 76 新潟県教育委員会 2009『北陸新幹線関係発掘調査報告書 X Ⅲ 一般国道 8 号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書 IV 田 伏山崎遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 205 集
- 77 新潟県教育委員会 2012『一般国道 8 号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書▼ 北陸新幹線関係発掘調査報告書 XXII 山 岸遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 228 集
- 78 新潟県教育委員会 2012『一般国道 8 号白根バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 小坂居付遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 238 集
- 79 新潟市教育委員会 1993『新潟市的場遺跡』
- 80 浜松市教育委員会 2002 『伊場遺跡』遺物編8、補遺編、総括編伊場遺跡調査報告書第 10~12 冊
- 81 日高町教育委員会 1986『川岸遺跡発掘調査概報』
- 82 兵庫県教育委員会 1997『砂入遺跡』兵庫県文化財調査報告 第 161 冊
- 83 広島県教育委員会 1994『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ』北部地域南半部の調査
- 84 平泉町教育委員会 1993『平泉遺跡群発掘調査報告書』泉屋遺跡 8 次、無量光院跡 1 次、佐野原遺跡第 1 次、志羅山遺跡第 21 次発掘調査 岩手県平泉町文化財調査報告書第 34 集
- 85 古川町教育委員会 1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告』古川町埋蔵文化財調査報告 第5集
- 86 平安京調査会 1975『平安京跡発掘調査報告』 左京四条一坊-
- 87 松阪市教育委員会 2006 『草山遺跡発掘調査月報』No. 1~No. 10 (増刷合冊)
- 88 三重県埋蔵文化財センター1996『上ノ垣外遺跡』三重県埋蔵文化財調査報告 123-2
- 89 宮城県教育委員会 1995『山王遺跡Ⅱ』多賀前地区 宮城県文化財調査報告書第 167 集
- 90 宮城県教育委員会 2001『市川橋遺跡の調査』宮城県文化財調査報告書第 184 集
- 91 山梨県教育委員会 1997『大師東丹保遺跡Ⅱ・Ⅲ区』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 132 集
- 92 四日市市遺跡調査会 1992『上野遺跡 2』四日市市遺跡調査会文化財調査報告書IX
- 93 米沢市教育委員会 2001『古志田東遺跡』林泉寺住宅団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書

50cm

(S=1/20)

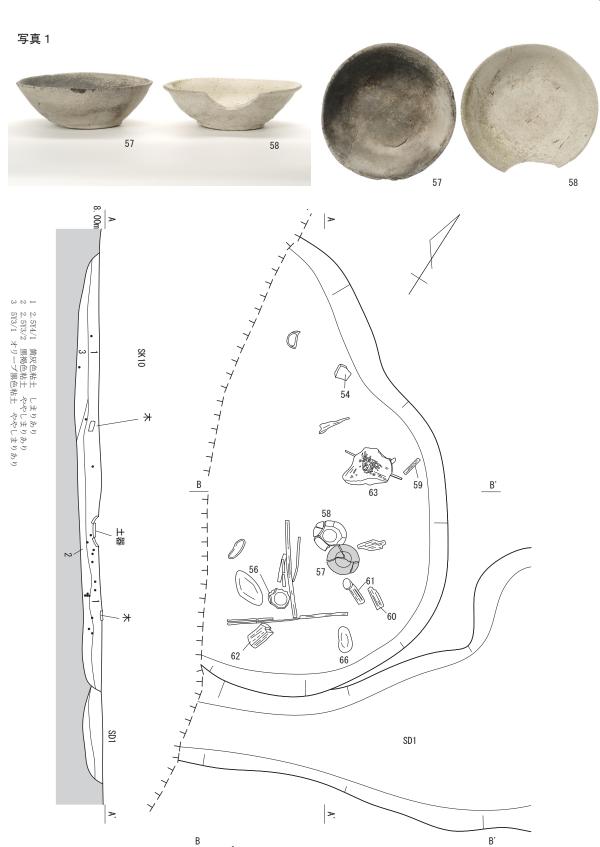
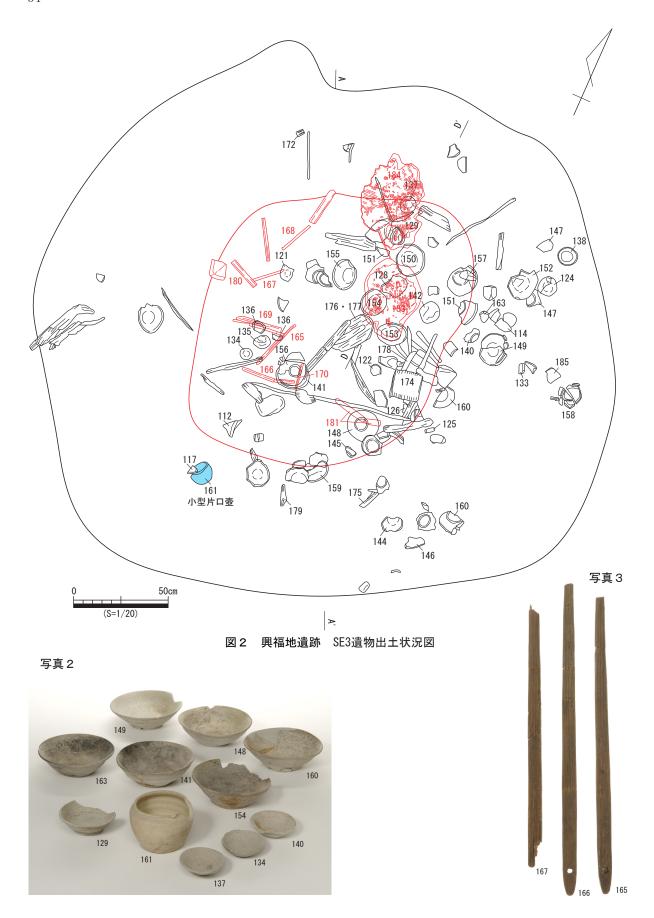


図 1 興福地遺跡 SK10遺物出土状況図

8. 00m

1 2.5Y4/1 黄灰色粘土 しまりあり 2 2.5Y3/2 黒褐色粘土 ややしまりあり



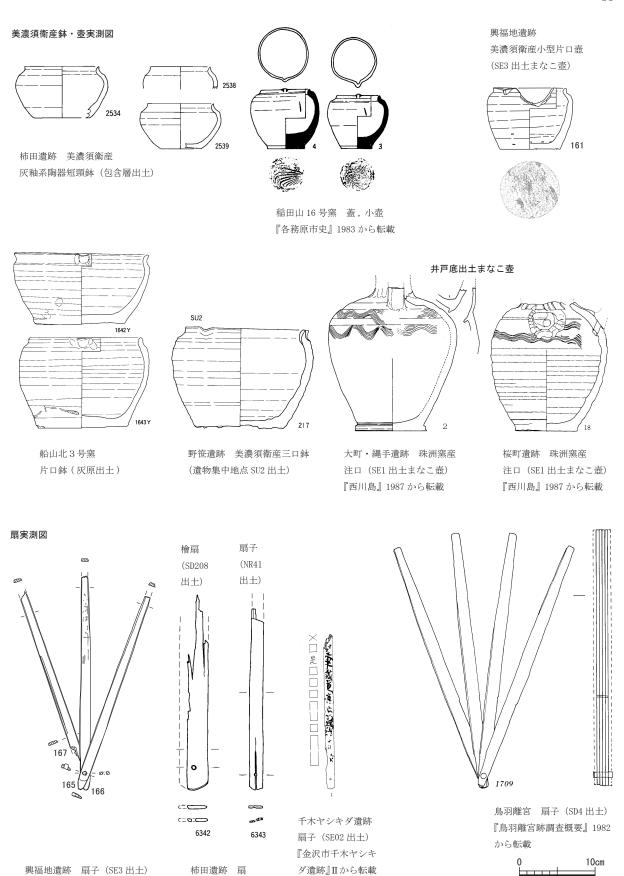


図3 美濃須衛産壺、まなこ壺、扇実測図

## 表1 扇出土遺跡一覧表(1)

遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載 番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有 無	扇樹種	遺跡の性格
興福地遺 跡 文献27		3本	SE3	井戸底	12世紀初	165~ 167	(28. 60)	1. 20	0. 30	于押木、爪、板状不製品、川余碗碗・皿、美濃須衛産小型片口壺・ 甕破片、白磁碗、土師器皿、伊勢 刑級	白黒の セット山 茶碗	トウ ヒ属	荘園関連施設
柿田遺跡 文献32	1枚		SD208		7世紀中~ 11世紀前 半	6342	(26. 00)	(4. 00)	0. 60	形代(人形、剣形、馬形)、斎 串、火付け木、箸、杓子状木製 品、農具、火きり臼、鞍、皿、曲 物、建築部材、須恵器、灰釉陶器		-	荘園管理者の居住 域、条里集落
		1本	NR41		11世紀後 半~13世 紀中	6343	(24. 20)	2. 00	0. 20	形代(刀形)、火付け木、糸巻、 箸、曲物、漆器、土師器甕、須恵 器、灰釉陶器壺、白磁壺		ヒノキ	屋敷地
杉崎廃寺 文献85	3枚		包含層		8世紀末 ~9世紀 初頭	170~ 172	23. 50	4. 00	0. 40	-		ヒノキ	古代寺院
	4枚			柱抜取痕	天平勝宝5	10	30. 40	1.8~3.0	0. 16	木簡、横櫛、人形、鳥形、刀形、 匙、匙形木製品、杓子形木製品、 曲物、折敷、方形鉢、土師器(暗	無	ヒノキ	南面築地回廊上に建設された第Ⅰ期
平城宮第 1次大極	1枚		SB7802	跡の 埋 土。	年以降に 廃絶。	11	(11. 60)	2. 10	0. 18	文有り、灯火器)、須恵器、墨書 土器、転用硯、漆付着須恵器、刻 印土器、土錘14点	無	ヒノキ	の東楼。第Ⅱ期の 宮殿建設に先立ち 撤去される。
殿地域 文献65	2枚		SD5505	-	平安時代	14	17. 10	1.8~3.4	0. 13	小円板、土師器(螺旋・斜放射暗 文)、須恵器、転用硯	無	ヒノキ	東外郭にある基幹 排水溝に東方の第 2次大極殿地域か ら注ぐ東西溝。水 流激しい。
w this t	1枚					124	(15. 90)	2. 60	0. 25	大型人形、人形、物忌札、刀形、 鎌形、矢形、鳥足形、火焔宝珠形 木製品、車輪形木製品、櫛、箸形 木製品、曲物、折敷、挽物、杓		ヒノキ	
平城京左 京一条三 坊 文献64	1枚		SD650	A(下 層)	平安時代 初期	125	(16. 70)	2. 20	0. 10	子、匙形木製品、糸巻、紡錘車、 物差し、横槌、臼形木製品、箱、 几脚、下駄、鳥絵のある板、車 輪、琴柱、弓、火鑽臼、木札状木	黒色土器	ヒノキ	東三条大路東側溝
	3枚束					126~ 128	(8. 80)	1. 40	0. 10	製品、土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑和陶器、緑和陶器、緑土馬、模型土器、銭貨		ヒノキ	
	11枚束					190	32. 50	3. 60	0. 20	木簡 (年紀は神亀2年(725)~天平 11年(739))、墨画板、土師器、		ヒノキ	
	7枚束。 1枚末に 「黒」 実 墨書有		SD5100	3(層の屑層	C期 奈良 時代中頃 729~745 年頃	191	29. 30	2. 90	0. 20	黑色土器、墨書土器、暗文土器、 聖主器、獨東國、 東國、 東國、 東國、 東國、 東國、 東國、 東國、	黒色土 器、暗文 土器	ヒノキ	二遺坊五藤の田・ 高楽年、 大路左京中地に 東京中地に 大路を東京中地に 大路を東京中地に 大路を東京地の 大田・ 大田・ 大田・ 大田・ 大田・ 大田・ 大田・ 大田・ 大田・ 大田・
	1枚		1			192	(17. 70)	2. 40	0. 20	抜き箱、巻胎漆器)、和同開珎5			点出土。
	1枚 4枚束		-			193 194	35. 30 33. 10	4. 20 4. 20	0. 20	点、銅丸鞆、銅轡、銅人形等、坩 堝、羽口台、ガラス小玉鋳型、鉱		ヒノキ	
	7枚束		1			195	(10. 50)	1. 70	0. 20	滓、獣骨、砥石、水晶・石英・琥 珀・瑪瑙片		ヒノキ	1
	6枚束					71	20. 00	2. 70	0. 10	「秦身万歳福」と刻んだ曲物、日		ヒノキ	
平城京左 京二条二 坊·三条 二坊 文献63	2枚束 (1枚に 墨描き 有り)		SD5300	層下	C期 奈良 時代中頃 729~745 年頃	72	19. 00	3.00	0. 20	本最古の絵馬、楼閣山水図板絵、 墨画板、木簡(年紀神亀5年が1 点器・暗文王が須恵士 ・ 天平3~8年)、土師器、墨・ ・ 田東田、佐、東里 ・ 田東田、佐、東里 ・ 大本製品、大大製品 ・ 大本製品 は ・ 大本 ・ 大本 ・ 大本 ・ 大本 ・ 大本 ・ 大本 ・ 大本 ・ 大本			二条大路上北濠状 遺構。左京二条二 坊五坪の宅地、推 坊東麻田(兵廃 卿)邸らの廃 棄。木簡35,211点
	2枚束		]	/百/		73	19. 60	2. 40	0. 10	馬形、鳥形、刀子形、刀形、釶		ヒノキ	
	6枚束 1枚		+			74 75	13. 70 15. 80	2. 30	0. 10	形、斎串、刳り抜き箱)、和同開 珎2点、銅丸鞆、銅瓔珞等、羽口		ヒノキ ヒノキ	1
	1枚					76	25. 30	2. 50	0. 20	台、鉱滓、獸骨、砥石、琥珀片		ヒノキ	
1枚	1枚		SD5310	木屑層	C期 奈良 時代中頃	5	21. 10	1. 50	0. 20	漆紙文書、木簡(年紀は天平8 年)、匙、刀子形、鏃形、土師 器、須恵器、鉄刀子		ヒノキ	SD5300と門を挟ん で対称の位置にあ る濠状遺構。木簡 727点出土。
	1枚		SE5220		E, F期 奈 良時代後 半から末	_	_	_	ı	土師器、墨書土器、須恵器、土 馬、木製品(刀子、曲物、曲物底 板、挽物皿、杓子、斎串)	有(煤付 着土師器 椀)	ヒノキ	左京三条二坊八坪 の敷地の東北隅に ある井戸
	7枚束		SE5140	下層	F期 奈良 時代末頃	25	(27. 50)	2. 20	0. 25	宝亀7年(776)の紀年木簡(荷札 木簡)。墨書土器「官厨」。土師 器、黒色土器、灯明器、須恵器、 田島・新打欠く壺」(2点)、土 馬、木製品(刀子柄、楔、横櫛、 曲物底板、斎串、釣瓶)	黒色土器	ヒノキ	太政官厨家。左京 三条二坊七坪の敷 地の中央にある井 戸

### 表2 扇出土遺跡一覧表(2)

表2 扇	出土遺	孙一覧	夏表(2)										
遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載 番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有 無	扇樹種	遺跡の性格
平城京左 京二条二 坊十二坪 文献68	1枚		SD03 二条 大路北側 溝	B期 (新 溝)	奈良時代 後半	21	(5. 30)	1. 90	0. 20	付札·荷札木簡、横櫛、陽物形木製品、刀子柄、糸巻、ヘラ状木製品、火鎖臼、曲物、漆付木製品、土師器、須惠器、獣脚形土製品	無	_	二条大路北の十二 坪は築地塀で区回 され奈良初頭の宮外官 平安初頭の宮外院 衙、離宮、寺院。
平城京左 京五条二	5枚		SE03	-	8世紀末	14~18	24. 60	末幅2.6 本幅1.9	0. 10	横櫛、斎串、刀子鞘、独楽、漆器、曲物、つるべ、桧皮、炭、種子(桃、梅、くるみ)軒瓦、土師	漆器	-	三彩、碁石、ガラ ス玉、有脚円面
坊十四坪 文献67	1枚		.0200	-		19	(18. 30)	(1. 90)	0. 10	器、須恵器、三彩陶器、銭貨、碁 石、ガラス玉	7-X 1111	-	硯、風字硯、形象 硯出土。
平城京八 条一坊十 四坪 文献66	3枚		SE2020		奈良時代 前半	13	28. 00	末幅4.5 基幅1.3	0. 15~ 0. 2	竪櫛、曲物容器、柄杓、方形の折敷、箸、モモの種子90点、平城宮 土器Ⅱ~Vの土師器皿C、黒色土器	黒色土器	ヒノキ	官衙風の配置をもつ建物群
	6枚重ね て「決 が」の 墨書有		井戸 470(池250 を造る前 に埋める)	木枠内	9世紀初頭 から中葉 (平安京 I期中~ 新)	木1~6	24. 50	末幅3.0 基幅1.6	0. 10	木簡、斎串、横櫛、棒状製品、杓 子形、箸、曲物、松明の付木、瓢 箪、土師器、黒色土器、須恵器、 緑釉陶器、灰釉陶器、製塩土器、 墨書土器	黒色土器	-	右大臣藤原良相の
平安京右 京三条一	4枚まと まって 出土(小 型品)			2層		木192 ~195	23. 80	末幅1.7 基幅1.0	0. 20	木簡、模櫛、琴柱形、舟形、車輪		-	邸宅「西三条第」 北東部。池出土遺 物は9世紀後半代 の貴族生活を示す 好資料。木簡、二
坊六・七 町跡-西三 条第(百 花亭)跡- 文献34	6枚まと まって 出土(中 型品)		池250	3層	平安時代 (9世紀後	木196 ~201	25. 90	末幅3.0 基幅1.8	0. 20	形、弓、ヘラ状製品、串状製品、 棒状製品、箸、柄、下駄、折敷、 浮子、曲物、土師器皿・坏・高 坏、黒色土器、須恵器、緑釉陶器	黒色土器	_	彩土器、製塩土 器、墨書土器、 釉陶器出土。墨書 の中には仮名文字 が含まれる。 灰釉
	3枚(大 型品)			3層	半代)	木202 ~204	33. 60	末幅3.2 基幅1.5	0. 20	(陰刻花文のある碗・皿、香 炉)、白色土器、灰釉陶器、輸入  陶磁器、二彩陶器、製塩土器、墨		-	陶器底部に「太 一」の墨書。水晶 製経軸、黒色土器
	5枚まと まって 出土			3層		木205 ~209	16. 60	基幅2.0	0. 30	書土器、土錘		-	の鉄鉢形鉢出土。
		1本		2層		木210	21. 70	1.00	0. 30			-	
平安京左 京四条一		1本 1本	SE1	中層	平安時代 末	W12 W13	(14. 70) (9. 50)	1. 20 1. 40	0.40	土師器、人面木札		-	四条坊門小路北の 藤原国明(白河法皇
京四条一 坊 文献86		黒漆塗 り 6本	Pit4	-	鎌倉時代	L57~ 62	(18. 30)	0. 90	0. 30	櫛(漆塗)		-	の近臣) 邸推定地南 西限
鳥羽離宮		東 小型品 4本東	北大路溝		平安時代後期11世	2	(19. 00)	1. 00	0. 40	木簡、人形、櫛、漆器椀、玉、陽 物形、下駄、土師器、須恵器、陶		スギ	田中殿地区金剛心 院内の九躰阿弥陀
文献33		大型品 4本東	跡 (SD4)		紀末~12 世紀頃	3	34. 00	1.50	0. 40	器、瓦器、中国製白磁・陶器			堂と推定
	1枚親骨					W12	22. 4	2. 4	0. 25			-	大規模な倉庫群の
矢倉口遺	1枚親骨		_	Ⅲ層	9世紀中葉	W13	(14. 8)	2. 6	0. 25	     横櫛、斎串、物差、尺、曲物、種		-	検出。木沓、尺、 檜扇、墨書土器、
) 跡 文献43	9枚閉じ たで、1 土、親骨		SE05	(中層)	~10世紀初頭。	W14親骨 W14	25. 6	2. 1	0. 25	子、土師器环(90枚以上)、須恵 器、瓦器、富寿神寶、刀子、鎌	無	-	円面硯、緑釉陶器 出土。東海道の要 衝に所在する、規 格性をもつ官衙的 遺跡群。
北萱遺跡 文献44		1本	B2地区包 含層(旧 河道の上 層)		7~13世紀	28	(22. 1)	2. 6	0.6	舟形、刀形、下駄、棒状木製品、 ヘラ状木製品、世塔婆张 曲物、 鋤、田下駄、權、須恵墨書土 器、畿内産黒色土器、近江型型黒角 は、瓦器碗、緑釉陶器、灰釉 青磁、白磁、鉄製刀子、素文 鏡	黒色土器	スギ	北川の旧河道。
大蔵司遺 跡一浦堂 地区C地 点一 文献18	1枚(小 型品)		溝6	-	奈良時代 後半から 平安時代	73	(12. 20)	2. 20	0. 20	横櫛、人形、刀形、鋤形、斎串、 木筒、木札、盤、曲物、折敷、 沓、下駄、鎌柄、棒状具、串、燈 火具、楔、火付木(200点以上)		-	遺跡北約500mに式 内社神服神社、南 約1kmに嶋上郡衙跡 がある。畿内小社 の国家祭祀を行っ た祓川か。
砂入遺跡 文献82	1枚		SD02 - 03、SD04		8世紀後半 から9世紀 初頭	339	20. 10	2. 00	0. 30	人形、馬形、斎串、木簡、付札、 曲物、木皿、須恵器、墨書土器、 土師器	無	スギ	袴狭遺跡北にある 続所。木筒、腰帯 金具出土。袴狭遺 跡からは銅印、八 稜鏡、緑釉陶器が 出土している。
川岸遺跡 文献81	1枚		SD01	-	8世紀末~ 9世紀前半	216	(20. 60)	3. 10	0. 10	木簡、斎串、人形、馬形、独楽、 算木、曲物、折敷、糸巻、杓子、 箸状木製品、木履、緑釉陶器、土 師器、墨書土器	-	ヒノキ	第2次国府。祓 所。
御蔵遺跡 文献28		1本	SE201		10世紀(平 安時代中 期前半)	133	23. 80	1. 05	0.30	黑色土器、土師器、須恵器、緑釉 陶器、土錘	黒色土器	ヒノキ	金属製帯金具、転 用硯、墨書土器出 土。官衙的性格を 持つ建物。

## 表3 扇出土遺跡一覧表(3)

遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載 番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有 無	扇樹種	遺跡の性格
三田谷 I 遺跡 文献46、 47		1本	木製品集積遺構		奈良・平安時代	14	(15. 40)	1.60	0.40	呪符木簡、木簡状木製品、	赤土赤暗坏坏 色额色文 · 多家。	-	文関の (1) では、
御殿・二 之宮遺跡 6次 文献29	1枚		河道		奈良~平 安時代	46	(31. 00)	3. 80	0. 60	本簡、荷札状木製品、横櫛、絵 馬、人形、馬形、鳥形、舟形、糸 器形、陽物、斎串、棒状木製品、 下駄、杓子、浮子、曲物、人面 書土器、大師器、須恵器、灰釉陶 器、万年通宝、鍬	無	-	国府の境の(道饗祭に類する)祭祀を行っている。遠 江国府か。
伊場遺跡 文献80	1枚		大溝 ハ 2W-IV		9世紀~10世紀	157	28. 70	1. 60	0. 20	本簡、人形、舟形、斎串、曲物、 有孔板、挽物盤、織機具、横槌、 槽、權、下駄、柄杓柄、須恵器、 土師器、灰釉陶器、人骨、動物骨 (牛、馬、鹿)	内土内彩着 市縣赤煤師 新出, 村縣	ヒノキ	敷陶鋳名・
中村遺跡 文献37~ 39	9枚		a2区SD01 (幅4mの 区画溝)	下層上部	平安時代 前半 (9・10 世紀)	187- 1~9	21. 20	2. 50	0. 10	曲物、土師器、須恵器、灰釉陶器	土師器有 台皿、鉢内 身、鉱内 外面に赤 彩	ヒノキ	敷智郡衙関連。木 簡出土。
	1枚					4047	(26. 60)	(3. 20)	0. 20			-	越中国府と10km離 れ水上交通拠点。
中保B遺 跡 文献52		1本	SX03 (豪 族層居宅 近くの水 路SD01最	4層	7世紀中頃 ~9世紀中 頃	4050	27. 30	2. 20	0. 40	木簡、人形、馬形、船形、箸、紡 錘車、火切臼、盤、刀子柄、暗文 土器、転用硯、「案調」「津三」	赤彩土器 5個体以 上(8~	_	船着場、倉庫群造 営。国府関連遺跡 や砺波郡衙の出先 機関か。緑釉陶
2011	1枚		下層)		*	4051	35. 40	4. 00	0. 15	などの墨書土器、赤彩土器 	9世紀)	-	器、暗文土器、带 金具、木簡、暗文 土器、墨書土器、 製塩土器出土。
北高木遺 跡 文献19	1枚		SD100		8~10世紀	1426	17. 60	1. 00	0. 15	本簡、付札状木製品、版木状木製品、縦櫛、尺、靴、人形、馬形、 舟形、鳥形、琴形、鏃形、杓子、 土師器、須恵器、「介」などの墨 書土器、人面墨書土器	無	-	越中国司に属する 官の牧の地、西大寺領中野荘か。
磯部カン ダ遺跡 文献25		10本束	南北方向 大溝 (SD16)		平安時代 (8世紀末 ~10世 紀)	47~50	28. 10	1.1~2.3	0. 20	横櫛、75点以上の斎串、人形、鳥形、火鎖杵、曲物、箸状木製品、施釉陶器、製塩土器、須恵器、土師器、49点以上の墨書土器 「成力」「大野」など、刀子、銅銭、砥石、土錘	無	-	紀年銘木簡。船着 き場状凹地有り。 官衙的性格が強い 遺跡
千木ヤシ キダ遺跡 文献24	1枚文上痕用か経 (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10)		SE02(井籠 組井戸)	井戸底	平安時代 (10世紀)	SE02-1	(20. 40)	(1. 15)	1	井鎮めの祭祀具(人形、刀形、斎 串)、建築廃材、黒色土師器、須 恵器、墨書土器「魚」 2 点	9世紀後 半代の黒 色土師器 混入	-	「魚」の特定字句 墨書。多量の強 銭、越州窯青磁、 緑釉陶器碗出土。 中心的建物に頻繁 な地鎮祭祀。
戸水C遺跡 文献31	5枚(要無し)		SE1111	9層	平安時代 前期(9世 紀末~10 世紀)	134~ 138	(18. 20)	2. 30	0. 35	柄杓、曲物、木皿、斎串、箸状木 製品、土師器、須恵器(蓋、坏、 碗、盤、双耳瓶)、墨書土器	無	スギ	漆紙文書、「津」 の墨書。緑釉陶器 唾壺、獣脚付円面 硯出土。港湾施設 的性格の強い遺 跡。
寺家遺跡 文献8、 9、10		6本東	溝か川跡		11世紀		36. 50	1. 70	0. 25	人形、斎串、木製盤、土師器、須 恵器		スギ	国を記録しています。 国本の はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます

## 表4 扇出土遺跡一覧表(4)

遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有	扇樹種	遺跡の性格
払田柵跡 Ⅱ区画施 設	3枚(同 一個 体、要 無し)	-	SX1192最 も古い櫓 状建物の 南西溝。外 郭北門付 近。		9世紀初	15、 16、17	13. 20	2. 40	0. 20	斎串、篦、鋤、横槌、楔、挽物 皿、曲物蓋、須惠器环、土師器杯 (墨書、内面黑色処理)、土師器 甕、転用硯	無 原本 原本 原本 の の の の の の の の の の の の の の の	-	創建9世紀初頭、終 末10世紀後半の払 田柵。政庁、国司が 駐在し、兵配帯 は鎮兵が。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。
文献1	1枚	-	SL1035 <i>5</i> N			37	(23. 40)	0. 20	0. 40		土師器坏	-	三年(759)完成の雄
	1枚	-	柵南門西		9世紀初~ 9世紀後半	38	(13. 40)	(1. 70)	0. 40	斎串、曲物底板、木錘、須恵器 坏、土師器坏、支脚	(内面黒	-	勝城か。外郭北門 正面のSD1145から
	1枚	-	の河川跡		1,02	39	(14. 80)	2. 20	0. 20		色処理)	-	絵馬出土。
	1枚		甲A地点 LR45水辺	皿層		100-7	(13. 00)	2. 30	0. 50	木筒、墨書土師器坏、ヘラ書土師 器坏、須恵器 (坏、甕)、灰釉陶 器碗、土師器灯明皿、内黒土師器 坏	内黒土師 器坏	スギ	
厨川谷地 遺跡 文献2	1枚		甲A区532 埋没旧河 道湧水点 (SD445下 部)	皿層	9世紀後半 から10世 紀前半	100-8	29. 20	1. 80	0. 30	现府木簡、題籤軸木簡、木簡、刀子形、斎串、箸、下駄、曲物、模、熊、漆書漆器椀、漆器、熔、 内黑土師器、小黑土師器、探、 八原、土師器、須、 東京 、 東	内黒土師 器、漆器	スギ	払田柵という城柵 官衙に附設された 律令祭祀の場とし て機能。
樋口遺跡 文献3	10枚束		ST30(捨て 場)		平安時代(9世紀後半)	55~64	28. 80	3. 30	0.40	京串、ヤス状製品、木札状木製品、アカスクイ状木製品、楔状木製品、棒状木製品、把手、曲物、 製品、棒状木製品、把手、曲物、 割物、篦、土師器(坏、高坏、 甕、壺)、砥石	土師器坏油煙付着20点(灯明用)	スギ	『日本三代実録』 にある「野代営」 近く。湧水地点の 祭祀場
古志田東 遺跡 文献93	3枚束		河川跡(大 きく蛇 行、船着 場 2 つ)	II ~ IV層	9世紀後半 ~10世紀 初頭	8~10	25. 30	2. 00	0.30	木簡61点、弓、修羅、鐙、箸状木製品、物指し、曲物、木錘、挽物、赤焼土器(酸化焼成)、土師器状、須恵器坏、須恵器坏、吳書土器、赤焼土器に柿洗施塗	無	スギ	古代置賜郡内の有力豪族の居館。
市川橋遺 跡第1~4 次 文献90	1枚		SD5021河 川跡		8世紀代か ら9世紀初 頭前後	557	(32. 40)	2. 30	0.50	斎串、横櫛、八、馬形、糸形、	土(坏・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ヒノキ	木書書・鏡良碗・坩布出た衛子を、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、
	1枚		SD5055河 川跡		9世紀代後 半から10 世紀初頭 前後	585	(6. 20)	(2. 70)	0. 30	木簡、人形、木刀、箸、つけ木、 土師器、須恵器、赤焼土器、漆付 着土器、手捏土器、墨書土器、刻 書土器、人面墨書土器、灰釉陶 器、銀釉陶器、硯、転用硯、瓦、 土製円板、坩堝、羽口、石製紡錘 車、卜骨	土師・ (坏・耳・ の。 ラガキ 単 一 が、 カナキ 単	モミ属	『杜家立成雑書要略』は国司や鎮守 府官人ら携行、ト
	1枚		SX1600東 西方向河 川跡	c層	8世紀後葉	1612	(4. 80)	1. 10	0. 20	木簡、人形、鏃形、刀形、船形、 横櫛、下駄、漆器、挽物蓋、箸状 製品、火鎖臼、ヘラ状製品、錘、 筬、漆紙文書、人面墨書土器、製 塩土器	漆器	_	
市川橋 326~29 次 以 29 東 で で で で で で で で で で で で で	1枚		SD1616東 西大路東 道路南側 溝	d層	8世紀後葉	1648	35. 40	3. 60	0. 20	本語・ 本簡、絵馬、人形、挽物皿、曲物、箱、錘、栓、土師器(坏・ 要)、須恵器(坏・要・ち長頸瓶・ 瓶)、墨書土器、人面墨書土器、 版制器、紡錘車、刀、刀子、獣 脚		_	絵馬、横笛、ササ ラ、人面墨書土 器、製塩土器、漆 紙文書、帯金具出 土。
	1枚		SD1522	1層	9世紀中葉	1725	(9. 50)	3. 50	0. 10	木簡、絵馬、斎串、錘、曲物、挽物、土師器(坏・甕)、人面墨書土器、墨書土器、須恵器坏、灰釉陶器、刀子	須恵器坏 内面煤付 着、漆器	_	
市川橋遺	1枚		SX2333		-	1695	(25. 20)	2. 80	0. 60	_	_	ヒノキ	
跡25~29 次 城南 地区北 西・南東	1枚		100区D106	3層	_	1816	23. 50	1. 80	0. 30	_	_	ヒノキ	漆紙文書、緑釉陶器、製塩土器、人面墨書土器出土。
ガロック 文献54	1枚		SD2234	2層	_	1926	(14. 00)	1. 50	0. 30	_	_	ヒノキ	

# 表5 扇出土遺跡一覧表(5)

遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載 番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有 無	扇樹種	遺跡の性格
	1枚		SE1606	4層	10世紀前葉	217	(26. 00)	2.00	0.30	斎串、土師器(坏・高台坏)、墨書 土器「西曹司」、須恵器(坏・長 頸壺)、赤焼土器(坏・皿・高台 坏・高台皿)、墨書土器、灰釉陶 器、瓦	土坏・のつき、土が、ないのでは、大いのでは、たいのでは、大いのでは、たいのでは、では、たいのでは、たいのでは、これのでは、これのでは、は、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これで	モミ属	
	1枚		SD172(SX1 0)東西大 路北側溝	D期	9世紀前葉	218	(8. 50)	2. 50	0. 30	土師器坏・甕、須恵器坏、墨書土 器、緑釉陶器碗	土師器坏内ラミガス	スギ	
	(1枚)			D期	9世紀前葉	221	(18. 00)	2. 50	0. 50		後黒色処 理	ヒノキ	緑釉陶器、八花
山王遺跡 多賀前地 区 文献89	1枚		SD173 (SX1 0) 東西大 路北側溝	G期	10世紀中頃	219	(5. 50)	1.70	0. 30	土師器坏、須恵器坏、墨書土器、 灰釉陶器碗、緑釉陶器碗	土師器坏 内面にガキ 後黒色処 理		鏡、帯金具、銅 
	1枚		SD2000河 川跡(南 北大路に 並行)	9層	9世紀中葉	220	(8. 10)	(0.80)	0. 20	土師器(坏・長頸壺・甕)、須恵器 (坏・長頸壺・甕)、墨書土器、人 面墨書土器、土師器坏1点内外面 に油煙付着、灰釉陶器碗、緑釉陶 器碗	土の長内へキの 長内へき りない 大・のにが も、 のにが も、 のにが も、 のにが も、 のにが も、 のにが り、 のにが り、 のにが り、 のにが り、ことが りとが りを りを りを りを りを りを りを りを りを りを りを りを りを	ヒノキ	の上級官人の館と 推定。市川橋遺跡 と一連の遺跡。
	(1枚)		SK410東西 大路下			222	(11.00)	(2. 00)	0. 40	土師器、須恵器、瓦、挽物(盤、 椀)、曲物		ヒノキ	
	(1枚)		SD1740 (柵に並 行する 溝)			223	(8. 00)	(1.50)	0. 30			モミ属	
大坪遺跡 第2次 文献41		1本	SG1河川 跡。建物 建 発 で り り り り り り り り り り り り り り り り り り	5-7層	9世紀後半	37-112	8. 00	1. 40	0.40	斎串、下駄、折敷、曲物、赤焼土 器坏、土師器、須恵器、墨書土 器、刀子	土師器 (内黒) 外面に墨 書	_	自然地形に制約された立地条件で政治的目的をもった計画集落。
荒田目条 里遺跡 文献17	1枚		第3号溝跡(運河)		9世紀	124-2	27. 10	2. 80	0. 20	曲物		ヒノキ	郡府木簡、種子 札、人形、絵馬、 人面墨書土磐城郡 内の有力氏族が関係。
的場遺跡	2枚		-湿地 A	黒シミ砂	8世紀前半 ~10世紀	208、 209	(19. 20)	1. 50	0. 40	斎串、櫛、舟形、箸形、糸巻、琴柱、櫂、編針、浮子100点、須恵器、土師器、赤彩土師器、管状土	赤彩土師	-	漁業や漁獲物の製品化の管理。内水面を利用する流通の経由地。帯金
文献79	1枚		7.2.7.0.7.1	層	前半	210	(0. 93)	1. 20	0. 40	鍾8,600点、大型有溝石鍾、製塩 土器、漆付着土器、墨書土器330 点	器	-	具、太刀足金物、木沓出土。組織的に漁業を行う。
中倉遺跡 文献60	2枚		川跡	川の 落 遺 物 東 反	9世紀後半	356	22. 4	1.80	0. 30	木簡、斎串、馬形、紡輪、木錘、盤、曲物、漆器、付木、土師器、 須恵器、転用硯、製塩土器、墨書 土器、土管・土錘	無台漆器盤	-	沼垂郡の物資の集 積地点・起点
船戸桜田 遺跡 2 次	1枚		川跡	10~ 13層	9世紀後半~末	620	16. 45	2. 40	0. 15	木簡、船形、馬形、斎串、漆器盤 6点、盤63点以上、曲物、焼印14 点(盤、蓋、曲物)、土師器、須	漆器盤		請求文書出土。川 の蛇行部に墨書土 器や祭祀具が集中 して出土。律令祭
文献61	1枚			10/6	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	621	15. 20	3. 45	0. 20	恵器、墨書土器、転用硯、人面墨 書小甕			祀が行われていた。
曽根遺跡	2枚			砂丘		6, 7	16. 30	3. 30	0. 20	下駄、曲物、柄杓、火鑽、箸状木		_	文字の無い荷札出土。郡衙か港湾事
I 文献72	1枚		-61N9	端泥 炭層	9~10世紀	8	27. 50	3. 10	0. 10	製品、土師器、須恵器	黒色土器	-	務所・税関に類似の施設。
牛道遺跡 文献70	2枚		SE184	1層	9世紀末~ 10世紀初 頭	43、44	(13. 70)	1.40	0. 10	蓋、曲物、火鎖棒、土師器(無台 坏・甕・鍋)、黒色土器無台碗、 墨書土器、タール・煤付着土器、 須恵器(坏・甕)	黒色土器 碗、漆器 蓋		北東2.5kmにある小 丸山遺跡からは100 点を超える墨書土 器、緑釉陶器が出 土。
田伏山崎遺跡		1本	沢地区北 自然流路 SD1077蛇 行部川底	1層	10世紀前 葉~11世 紀前葉	21	(14. 90)	1.50	0. 30	八稜鏡、棒状木製品、土師器無台 碗(漆付着)、須恵器瓶、腰帯石 銙、墨書土器、墨書のある須恵器 小壺	土師器無 台碗(漆 付着)	スギ	平安時代の祭祀を 行う場。官人が祭 祀に関わった。木 簡、緑釉陶器、製 塩土器出土。沢地
之 文献76		1本	32L7	Ⅷ c 層	平安時代 の遺物を 含む包含 層	26	(19. 90)	1. 80	0. 20	緑釉陶器、黒色土器、製塩土器、 二次焼成を受けた小型壺、火鎖 臼、火鎖皿	黒色土器	スギ	区南SI13周辺から 6世紀後半の黒色 処理の土師器が出 土。

表6 扇出土遺跡一覧表(6)

表6 扇	山土退	邺一 ፟፟	〔表(6)										
遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載 番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有 無	扇樹種	遺跡の性格
		1本	SD603河川 跡		平安時代 後期	66	(23. 30)	2. 60	0.60	下駄、曲物底板、土師器、黒色土 器	黒色土器 4点	スギ	
		1本	10)y		12/70	67	(19. 20)	2. 10	0.40	呪符、櫛、人形、刀形、舟形、ミ	黒色土器	スギ	
		1本	CD1, SET III		T 7 n± 45	314	(18. 20)	2. 00	2. 50	ニチュア櫂、斎串、杓子、弓、曲	碗13点	スギ	「高有私印」銅印
一之口遺		1本	SD1'河川 跡	2層	平安時代 11世紀	316	(37. 40)	2. 80	0.50	物、コモヅチ、漆器、栓、火鑽板、火鑽棒、土師器、黒色土器、	(内黒、暗文)、	スギ	が出土した江向遺
跡東地区 文献69		1本				356	(13. 80)	1.80	0. 40	タール・煤付着土器、須恵器、灰 釉陶器	漆器皿3点	スギ	跡と平行する時期 に営まれ、何らか
) (II) (II)		2本	-SD1'河川		平安時代	454、 455	31. 20	1. 70	0. 30	舟形、物差、下駄、柄杓の柄、曲 物、火鑽棒、砧、コモヅチ、漆	黒色土器 碗(内 黒、内外	ヒノ キ属	の関係があると推 定される遺跡。
		3本	跡	5層	11世紀	459、 460、 461	(27. 40)	1. 60	0. 40	物、入類棒、加、コモノア、 な   器、挽物、土師器、黒色土器、須   恵器	黒、暗 文) 5 点、漆器 皿3点	=	
西鴨地遺 跡 文献35	1枚		自然流路 (河道)	VI層	8世紀中葉 ~10世紀 末	403	(23. 6)	1. 4	0. 2	横櫛、土師器、須恵器、黒色土 器、緑釉陶器、製塩土器		ヒノキ	緑釉陶器、製塩土 器、帯金具出土。 官衙関連遺跡。
鴨部・川 田遺跡Ⅱ 文献21		4本東	SD1069		平安時代 末	2661	(19. 4)	1. 6	0. 2~ 0. 3	土師器	無	ヒノキ	-
鹿田遺跡 第1次調		1本			平安時代	-	-	-	-	- 11.41		スギ	藤原氏殿下渡領の
查 文献20		1本	井戸24		末	-	-	-	-	浮子、曲物		スギ	・鹿田庄か春日井神 社領の荒野庄。
小倉畑遺 跡 文献22	3枚(同一)	-	溝状遺構	=	9~10世紀	469~ 471	30. 30	3. 30	0. 30	横櫛、付け札状木製品(ササラか)、曲物、土師器、黒色土器、 須恵器	黒色土器	カヤ	帖佐郷の中心地。
黒谷川宮	1枚 未製品		SR1001南 北方向自 然流路	第7層	.9~11世紀	1809	39.8	末幅4.9 基幅1.5	0. 2~ 0. 4	串形木製品、曲物、漆器、内外面 赤彩土師器皿、土師質土器鍋、黒 色土器、製塩土器、墨書土器、青 磁	赤彩土師 器、黒色 土器、漆 器	ヒノキ	衝の一つ。8から9
ノ前遺跡 文献56	13枚束 閉じた 状態で 出土		SR1002東 西方向自 然流路	-	-9~II 但和	1979~ 1991	28. 3	末幅3.8 基幅2.7	0. 15	人形、齋串、串状木製品、赤彩土 師器坏	赤彩土師器	ヒノキ	世紀は官衙、中世 は屋敷地。緑釉陶 器、円面硯、青 磁、製塩土器出 土。
史跡出雲 国府跡		4本束 (墨痕 有)	4号井戸 (庇付掘立	8層下層(井		29	(20. 0)	1. 2	0. 2~ 0. 4		内面黒色	スギ	大舎原地区は国司の館と考えられ、
大舎原地 区		1本	柱建物1号建物:国	戸枠上面	11~12世 紀	30	(15. 9)	0. 75	0. 2	著、板状木製品、棒状木製品、須 恵器、曲物、土師器、白磁、丸	土師器、 漆膜(黒	スギ	堂田地区は東に隣 接する。遺跡の北
立 文献48、 49		1本	司館に付属する)	を覆う土)	100	31	(16. 0)	0.8	0. 2	瓦、ガラス小玉	に赤で草 文)	スギ	西に真名井神社が
+9		1本	- (馬りの)	) 1		32	(15. 3)	0.8	0. 2			スギ	ある。木簡、緑釉陶器、墨書土器、
史跡出雲	3枚					22-1~ 3	(14. 5)	1. 4	0. 5	**************************************		スギ	円面硯、朝鮮半島系陶磁器、擬漢式鏡、ガラスは出土
国府跡 6	1枚		12号井戸	中層 (4·5	平安時代	22-4	(6. 9)	1.3	0.3	師器鍋、黄釉陶器、種子(モモ、	漆器	スギ	土。奈良時代末から瓦葺き建物が造
堂田地区 文献50		1本		層)	後半	22-5	(9. 1)	0.7~0.9	0. 2	】ヤマモモ、ウメ、オニグルミ)、 獣骨(イノシシ、シカ) 」		=	営された。玉造関 係、金属製品生産 関係遺物出土。
		1本				22-6	(8.3)	1.0	0.3			-	
	5枚(小型)		7区SD1004	-	9~10世紀	2869	19.5	1.8	0. 2	板状木製品、黒色土器、土師器	黒色土器	スギ	
	1枚		SR3001南 区 (03-8)	V	8世紀後半~9世紀前	159	(6. 5)	(1.7)	0. 2	円筒状人形、剣形、紡織具形、木 札、斎串、下駄、曲物、棒状祭祀 具、栓状木器、部材、鋤、馬鍬、	黒色土器	-	
	3枚		E (00 0)		半	212	(23. 7)	1. 7	0.3	土師器、黒色土器、墨書土器		-	
	3枚		SR3001南 区 (04-2)	п	中世	601	(18. 7)	(1.4)	0. 2	人形、斎串、木札、箸、棒状祭祀 具、紡織具、曲物、土師器、黒色 土器、土錘、動物遺体(イヌ)	黒色土器	_	
観音寺遺	2枚		CD2001 =		10世紀前	757、 758	30. 5	1. 5	0.4	人形、鳥形、刀子形、剣形、斎 串、下駄、棒状祭祀具、楔、横 槌、糸巻横木、杓子、箸、織機、 曲物、馬鍬、腰掛、台座、樺巻	赤彩土師	-	阿波国府内で廃棄 された堆積した自 然流路。勘籍木
跡 文献57~	1枚		SR3001南 区 (05-1)	Ш	半~11世紀初頭	759	(10. 1)	(1.6)	0. 2	棒、瓦、須恵器、土師器、黒色土	器碗、黒 色土器	-	簡、物忌札、銅
59	1枚		1		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	760	(9.5)	1.7	0.3	器、赤彩土師器碗、墨書土器、土 師器羽釜、土錘、砥石、動物遺体	J = 100	-	印、緑釉陶器、墨 書土器、銙帯出
	1枚					761	(5. 1)	1.5	0. 2	(ウマ、ウシ、イヌ)		-	±.
1枚	1枚		SR3001南 区 (05-1)	IV	9世紀後半 ~10世紀 前半	876	(24. 0)	2. 3	0. 2	横櫛、斎串、人形、鳥形、刀子形、木札、棒状祭祀具、箸、火付棒、曲物、挽物、俎、篦、木錘、土師器、須惠器、墨書土器、土錘	無	-	
	1枚		SR3001南 区 (05-1)	V	8世紀後半 ~9世紀前 半	924	31. 7	4	0.4	模櫛、琴柱、人形、刀形、紡織具 形、鳥形、舟形、斎串、木札、柄 杓、杓子、箸、棒状祭祀具、馬 物、挽物、木錘、紡織具、馬墩、 柄、土師器、須恵器、墨書土器、 動物遺体(ウマ、ウシ、イヌ)	無	-	

表7 扇出土遺跡一覧表(7)

遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載 番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有 無	扇樹種	遺跡の性格
	1枚					1272	30. 2	1.4	0. 2			-	
	4枚					1273	27. 4	1. 2	0.1			-	
	3枚束					1274	35. 2	1.7	0.3			-	
	1枚					1275	34. 4	1.6	0.4			-	
	9枚まと まって 出土					1276	26. 6	1. 7	0.3			-	
	11枚束					1277	18. 8	1. 0	0. 15			-	
	2枚					1278	18. 6	1. 3	0.4	横櫛、人形、刀形、剣形、鏃形、 矛形、紡織具形、陽物形、木札、		-	
	4枚束					1279	35. 0	1. 7	0.3	下駄、斎串、棒状祭祀具、箸、籌		-	
	4枚束		SR3001南		10世紀前	1280	(6.3)	1. 2	0. 2	木、柄杓、杓子、匙、紡織具、留 針、曲物、槽、刳物、挽物、栓、		-	
	3枚		☑ (05-2)	ш	半~11世紀初頭	1281	(9. 7)	1. 4	0. 2~ 0. 4	馬鍬、木錘、横槌、編棒、鏃、鳴 鏑、部材、板材、樺巻棒、土師	無	-	
	3枚					1282	(9.8)	(1.6)	0. 2	器、土錘、緑釉陶器、墨書土器 (人物画)、人面墨書土器、動物		-	
	1枚					1283	(15. 7)	1. 7	0.3	遺体(ウマ、イヌ)		-	
	1枚					1284	(13. 7)	1.3	0. 2			-	
		1本				1285	(13. 9)	(1.7)	0.6			ヒノキ	
	2枚束		]			1286	(9.6)	1.5	(1.5)			-	
	2枚					1287	(6. 9)	1.4	0. 2			-	
	2枚					1288	(9.5)	1.1	0. 2			-	
	1枚					1289	(10. 2)	1.8	0.3			-	
	1枚					1290	(7. 1)	1.0	0.3			-	
	1枚		SR3001南 区 (05-2)	IV	9世紀世紀 後半~10 世紀前半	1529	(20. 2)	1.8	0. 2	人形、馬形、刀形、紡織具形、棒 状祭祀具、斎串、天秤棒、木札、 箸、曲物、土師器、須恵器、黒色 主器、動物遺体(ウマ、ウシ、イ ヌ)		-	
	1枚					1955	(7. 4)	1. 2	0.3	横櫛、円筒状人形、剣形、刀子		-	四次同点点不应流
50 ÷ + 10	2枚束				9世紀世紀	1956	(32. 0)	(2. 5)	0. 2	形、矛形、戈形、鎌形、紡織具	漆器椀	-	阿波国府内で廃棄 された堆積した自
観音寺遺 跡	1枚		SR3001南 区 (04-1)	IV	後半~10	1957	(27. 1)	1.8	0.6	形、斎串、下駄、箸、杓子、紡織 具、曲物、挽物、柄、楔、編台、	(外面黒 漆内面赤	-	然流路。勘籍木
文献58、	1枚		区 (04 I)		世紀前半	1958	(10. 2)	(1.7)	0. 2	編棒、題籤軸、籌木、火付棒、墨	漆)	-	簡、物忌札、銅 印、緑釉陶器、墨
59	6枚束					1959	(10. 4)	(1. 2)	0. 2	書土器、土錘、動物遺体(ウマ)		-	書土器、銙帯出
	1枚		SR3001南 区 (04-1)	V	8世紀後半 ~9世紀前 半	2177	(11. 1)	(1. 6)	0. 3	横櫛、人形、馬形、舟形、刀子 形、刀形、紡織具形、斎串、棒状 祭祀具、琴柱、木札、曲物、挽 物、題籤軸、籌木、土師器、須恵 器、墨書土器、土錘、動物遺体 (ウマ、ウシ、イヌ)	内外面赤 彩土師器	ヒノキ	1±。
	1枚		SR3001南		9世紀世紀	2448	(7. 5)	1. 1	0.3	横櫛、人形、斎串、棒状祭祀具、	内外面赤	-	
	4枚束		区 (07-1)	IV	後半~10世紀前半	2449	31.9	1. 6	0. 4	曲物、土師器、須恵器、土錘、動 物遺体(ウマ)	彩土師器	-	
	1枚		SR3001南 区 (07-1)	v	8世紀後半 ~9世紀前 半	2480	30. 9	3. 2	0. 2	人形、剣形、斎串、木札、曲物、 木錘、樺巻棒、籌木、土師器、土 錘	無	-	
	1枚		SR3001 3 区西	6	-	12	(10. 8)	2. 9	0. 35	織機、曲物、土師器、黒色土器	黒色土器	-	
	3枚 4枚表面 に墨痕		SR3001 3 区西	8	10世紀前 半	33 34	(23. 0)	1. 6	0.3	斎串、棒状祭祀具、箸、曲物、		 	
	1枚		SR3001 3 区西	9	10世紀前	51	(6. 9)	1. 45	0. 25	斎串、棒状祭祀具、琴か、箸、曲 物、土師器		-	
	1枚		SR3001 3 区北	7	10世紀後 半~11世 紀初頭	89	(8. 0)	1. 4	0.4	織機、曲物、土師器		-	
	1枚		SR3001 3		10世紀後	123	(27. 1)	1. 3	0.4	人形、鳥形か、鏃形か、斎串、棒		-	
	1枚		区東	7	半~11世 紀初頭	124	(8. 5)	1.7	0. 35	状祭祀具、箸、曲物、織機、籌 木、火付棒、土師器、瓦		-	
	1枚		SR3001 3 区東	8	10世紀前 半	205	(3. 2)	1. 5	0. 25	人形、刀形、舟形、斎串、棒状祭 祀具、箸、織機、横槌か、柄、編 棒、曲物、籌木、火付棒、土師 器、黒色土器		-	
		1本	SR3001 3 区東	12	9世紀代	400	27. 6	1.5	0. 5	人形、斎串、棒状祭祀具、横櫛、 箸、下駄、曲物、題籤軸、籌木、 火付棒、土師器、黒色土器、瓦	黒色土器	-	

表8 扇出土遺跡一覧表(8)

遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載 番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有 無	扇樹種	遺跡の性格
		1本	21SD1外郭 を区画す	集中 して 出土		563	(18. 70)	0. 90	0. 30	立体人形、鏃形、陽物形、刀形、 笄形、五輪塔形、横櫛、鞘、刀子 柄、下駄、物差、曲物、折敷、	内面炭 素・炭化	アスナロ	
		1本	る大規模 な堀の東	する 箇所	12世紀後 半代	564	(7. 20)	0. 90	0. 20	箸、漆刷毛、匙状木製品、杓子、 篦状木製品、糸巻、紡輪、御簾 錘、編針、付札状木製品、櫛歯状	物吸着か わらけ16	アス ナロ	
		1本	南部分	2 箇 所		565	(7. 00)	1. 80	0. 30	木製品、笹塔婆、火鑽板、かわらけ、墨書土器	点	スギ	
		1本	23SD34			915	(7. 60)	1. 10	0. 50	刀子柄、曲物、草履状木製品、か わらけ、白磁水注	内 が は な は な に な が は れ が は れ が は れ が は れ が れ れ が は れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ	スギ	呪府木簡、四耳 壺、白磁水注、梅 瓶、火舎、花瓶、
		1本	41SD2外郭 を区画す	海に 架 かっ てい	12世紀後	1130	(19. 10)	1.30	0. 50	杵形、砧形、糸巻、刀子柄、篦状 木製品、下駄、曲物、折敷、杓 子、箸、羽子板状木製品、竹トン	二次焼成 内面煤付 着2点、	スギ	八稜鏡、円鏡、琥 珀、水晶、ガラ ス、鉄鈴出土。寝 殿造の対の屋の絵
柳之御所 跡第21· 23·28· 31·36·		3本バラ	る大規模 な堀の北 西部分。	たのばら数出	半代	1131~ 1133	23. 10	1. 50	0. 50	ボ状木製品、独楽、笹塔婆、火鑽 臼、かわらけ、穿孔の有るかわらけ	タール付 着かわら け 1 点	スギ	が描かれた折敷、 「人々給絹日記」 が書かれた折敷出 土。11世紀末から
41次 文献12		2本東	21SE2	最下層	12世紀後 半代	1653	(21. 00)	1. 20	0.30	木簡、刀子柄、下駄、漆器、折 敷、土師器皿35点、胡桃・桃の 種、ウリ科種子、かわらけ、青磁 碗	漆器、 タール付 着土師器 皿1点	スギ	12世紀末の約100年 間にわたって奥羽 を支配した平泉藤 原氏に関連する遺 跡。12世紀後半代
		1本	28SE4	下層 21層		2356	(6. 10)	2. 10	0.30	人形、刀子柄、漆器、箸、曲物、 折敷、糸巻、笹塔婆、土師器皿 247点、人面墨書かわらけ、白 磁、ウリ科種子	漆器、内 面炭化物 付着かわ らけ2点	アスナロ	の遺跡で、『吾妻 鏡』に記載された 「平泉館」(政 庁)に相当する可 能性がある。
		1本	28SE5	4層	12世紀後 半代	2405	(7. 10)	1. 30	0. 40	木簡、立体人形、横櫛、折敷、かわらけ、ウリ科種子、焼けた白 磁・青白磁	炭素付着 かわらけ 2点	スギ	1112127000
		6本バラ	28SE17	9層	12世紀後 半代	2807~ 2812	(23. 80)	0. 90	0. 30	木簡、櫛歯状木製品、刀子柄、かわらけ、瓦、刀子	煤付着か わらけ 1 点	竹	
		1本	21SK55	最下層		3519	26. 10	1. 00	0. 30	原甲状へ裂品、折敷、者、囲物底板、笹塔婆、かわらけ、ウリ科種		-	
		1本	23SK83便 所遺構	最下層	12世紀後 半代	3677	(26. 80)	1. 10	0. 40	青白磁合子蓋、かわらけ、墨書土 器、チュウ木(多数)、ウリ科種 子、梅の種、鉄鈴		スギ	
柳之御所 遺跡50次 文献13		1本	50SE3	3層	12世紀	4006	(12. 40)	1. 70	0.40	墨書木片、印章、櫛、糸巻、もの さし、宝塔、曲物底、箸、方形山 物、折敷、第、刀子柄、下駄、かわらけ、漆布に覆われた白磁四耳 壺、白磁皿、常滑広中壺、漆塗り 用途不明木製品(底面両端に布付着)	か内煙漆途製布れ四時では、明本では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	_	「磐前村印」銅 印、漆布で覆完 東京 本の 大白出土。 東京 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
460 ± 400 = r		1本				5054	25. 00	1. 00	3. 00	   木簡、刀形、横櫛、円盤状、漆   器、折敷、箱、曲物、杓子、棚、	かわらけ内面に油	スギ	「平泉館」か。
柳之御所 遺跡52次 文献14		1本	52SE8		12世紀	5055 5050~	25. 00	1. 00	3. 00	木槌、箸、刀子鞘、多数のかわらけ、常滑(甕、片口鉢)、白磁	煙付着が	ノキ	
		4本束				5053	45. 00	2. 00	0. 50	壺、緑釉、中国陶器壺、丸瓦、平 瓦	少剱有。	スギ	
柳之御所 遺跡55次 文献15		3本	55SE1		12世紀前半	-	-	-	-	かわらけ、木簡、漆器、鞘、箸	漆器		
柳之御所 遺跡56次 文献15		1本	56SD38居 館の外周 を巡る堀		12世紀	4047	(14. 00)	1.30	0. 50	かわらけ、白磁、青白磁、瓦、柱状高台、壁土、下駄、鍬、箸		スギ	
志羅山遺 跡第21次 文献84		2本東	10号溝		12世紀	10	(17. 20)	0. 90	0.40	下馱、装飾用金具、三角形状布製 品(烏帽子)	無	-	平泉の官庁街。高い生活水準の空間。『吉子妻鏡』に倉町」に着いる「高屋」が。向町」にも町」にも、五町」にも、五町」に対して、五町」に対して、五町のでは、大石のではないがでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のではないでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のではないは、大石のでは、大石のでは、大石のではないがはないがでは、大石のではないではないでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のではないではないがではいいではないでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のでは、大石のではないではいいではいいではいいではいいではいいでは、大石のでは、大石のではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではい
志羅山遺 跡第14・ 25次 文献11		1本	SE5	15層	12世紀	21	24. 50	1.00	0. 40	漆器椀、下駄、折敷、曲物、箸 101点、羽子板状木製品、刀形、 土師器皿84点、青磁、白磁、炭化 物、金属製品、獸骨	漆器、 タール付 着土師器 皿6点	ヒノキ風	微水注、石袋胺 帯、水晶、烏帽子 出土。
志戸田縄 遺跡第3 次 文献42		2本	SD4 屋敷 区画溝	=	12世紀後 半代	52- 122、 123	(13. 10)	1. 60	4. 20	下駄、漆刷毛、小刀鞘、須惠器、 土鈴、砥石、馬歯	無	スギ	屋敷跡

## 表9 扇出土遺跡一覧表(9)

10 网			14(3)										
遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土 遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載 番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有 無	扇樹種	遺跡の性格
		1本	SD10		10世紀~	72	(13. 80)	1. 70	0.40	杓子、糸巻、浮子、コモヅチ、円		スギ	
		1本	3010	1	12世紀後 半	89	(16. 50)	1. 60	1.40	形板、楔、部材、漆付着須恵器坏		スギ	1
		8本	SR3194	2b	9~10世紀	170~ 177	(24. 60)	1.60	0. 50	斎串、荷札状木製品、刀子形、杓子、曲物、浮子、黒色土器、製塩 土器、須恵器、灰釉陶器	黒色土器	スギ	9世紀後半〜10世紀 は製塩土器、漆パ レット、緑釉短頸 壺が出土。12世紀
		3本束	SR512	6	12世紀後半	285	(19. 50)	1. 60	0. 60	横櫛、木簡状木製品、斎串、箸、 糸巻、コモヅチ、チキリ、円形		スギ	末は木簡、白磁四 耳壺、青白磁梅瓶
山岸遺跡		1本	ONOTE	Ü	12 医心 放干	287	24. 20	1. 20	0. 50	板、方形板、槽、火鑽棒、土師質 皿、白磁、珠洲壺・甕		スギ	出土が出土し名主 クラスが存在す る。13世紀中頃は
山岸退跡 文献77		1本	SD3495	1	13世紀末	405	(16. 40)	2. 00	0.40	-		-	沼河郷(保)の地
		3本	SE4404	4	13世紀	436~ 438	(9. 10)	2. 10	0. 30	箸、草履芯		-	頭名越氏(北条氏 一門)に関連した
		1本	12R3	Шe	12世紀後半	1059	14. 20	1. 70	0. 20	呪符、舟形代、杓子、ヒョウタ		-	遺跡。13世紀末に は名越氏の別宅あ
		1本	13S15	Шe	12世紀後半	1060	7. 50	2. 50	0.80	ン、糸巻、浮子、コモツチ、円形 板		-	るいは接客の場
	1枚		13P21	IV a'		1082	(17. 30)	2. 60	0. 60	木簡、漆器、箸、円形板、コモヅ			(庭園を持つ建物
		1本	1387	Ⅲe~d	12世紀後半	1083	24. 20	1. 20	0. 20	<i>F</i>	漆器	スギ	が建つ)も兼ねた 北陸経営の拠点。
		1本				1197	(12. 90)	1. 80	0. 50	斎串、漆器、鞘、円形板、多角形	** BB	-	
		1本	16E16	Шa		1198	(18. 10)	1. 80	0.60	板	漆器	-	1
		3本東	SB302-P12		12世紀後 半~13世 紀代	77	(18. 90)	1. 10	0. 40	箸、漆器皿	漆器	スギ	陸路および水上交通の中継地点。古
		3本東	道状遺構		12世紀後半	401	36. 60	2. 00	1.60	箸、漆器、紡錘車、折敷	漆器	スギ	代には官道が通過 する中世において
寺前遺跡	3枚		13B、14C23		12世紀後半	515~ 517	(21. 30)	2. 10	0. 40	人形、動物形、刀形、杓子、漆 器、箸、下駄、折敷、紡錘車	漆器	スギ	も重要な位置をし める。在地有力者
文献75	3枚		A2区 P1		12世紀後半	586~ 588	(16. 40)	1. 90	0. 40	挽物粗型、挽物椀底部か		スギ	が街道沿いに屋敷 を構え、鋳物、漆 器等の生産と販売
	1枚		出土位置不明			903	(12, 30)	1. 80	0. 10			スギ	流通という経済活
		1本	11C11周辺	Ξ		1007	(15. 10)	1.00	0. 30	折敷		針	動を行う。蘇民将 来木簡出土。国衙
	1枚		不明			1188	(11.00)	1. 10	0.50			針	(未不間田工。国間 領。
		4本束	11024			1189	33. 60	1.40	0.30	漆器	漆器	スギ	
水走遺跡 第3次 文献40		7本東	No10, 11 ピット溝1	第10 層上 面	鎌倉時代 末期(13世 紀後葉)	400	17. 60	1. 40	0. 15	下駄、曲物底板、板状木製品、 杭、土師器大皿、ウマの歯、桃の 種		イコ た ヒ ナ	_
小坂居付 遺跡 文献78		1本	SD112屋敷 地区画溝	8	13世紀後半	57	22. 20	2. 20	0. 30	斎串、篦、草履芯、箸状木製品、 曲物、有孔円板、刀子、折敷		スギ	屋敷地。刀子の 柄・輪木の紫色生産 使用。紀年銘の品種 る芽札、米の品種 を書いた種子札、 呪符、漆器出土。
子安遺跡 文献51		1本	SE20807	底面	中世後期	1683	22. 00	0.80	0. 20	漆器椀、折敷、曲物、杓	漆器	-	中世後期の区画溝を有する屋敷地。
大師東丹 保遺跡 II・III区 文献91		6本東	包含層 SD上層 B-38	II 区 第 1 面	13世紀中 葉~14世 紀初	176	35. 60	1. 20	0. 60	呪符木簡、斎串、人形、刀形、陽物形、手鏡形木製品、横櫛、下駄、草履芯、漆器碗・皿・曲物、折敷、曲物、落 板杓子、	土師器皿 内外面煤 付着	ヒノキ	屋敷に附属する祭 祀場。雨止祈願呪 符、馬下顎出土。
砂山中道 下遺跡 文献73		不内が存じをし態 来3残。て上たで+	SE17(集 落の中心 の掘立柱 建物SB3に 付属する 井戸)	6	鎌倉~室 町(14世 紀)	21	33. 50	2. 50	0. 30	箸状木製品、棒状木製品、漆器 椀、織機?、中世土師器、珠洲擂 鉢、甕類片、土錘、鍬、礫点、炭 化米	漆器椀 1 点	ヒノキ科	東大寺領加地荘に 関係した在地有力 類の住きまい。 場かからと、 開出土。 開出土。 関係したま 場がから、 場がから、 の大 簡、 本 塔 後 後 後 後 の は き 、 の は き 、 の は き の は 。 の は 。 の は 。 の は 。 の は 。 の は 。 の 、 の 、 の 、 の 、 と 。 と 。 と 、 を と と ら 。 と ら 。 と 。 と 。 と 。 と 。 と 。 と 。 と
姫御前遺 跡 I 文献74		1本	4A8	Пb	14世紀後 半	216	(16. 10)	1. 50	0. 30	木簡、人形、刀形、下駄、箸状木 製品、棒状木製品、銭貨		スギ	湿地的な環境で祭 祀が行われた。茶 の湯や香を嗜むこ とのできる比較的 財力のある階層。

表10 扇出土遺跡一覧表(10)

遺跡名 文献番号	檜扇	扇子	出土遺構	出土位置	扇出土 遺構の時 期	掲載 番号	扇骨長 (cm)	扇骨幅 (cm)	扇骨 1 本の厚 (cm)	扇以外の出土遺物	黒色・赤 色土器・ 木器の有 無	扇樹種	遺跡の性格
		7本束	22号溝			9	35. 30	1. 40	0. 35	青白磁梅瓶、土師器皿、花文漆器 碗・皿、刀子柄、石鍋、銅銭	漆器	-	
		1本 団扇ヵ	南西側河川	腐植土層		29	(18. 40)	2. 20	0. 70	横櫛、竪櫛、杓子、ヘラ状木製 品、花文漆器碗・皿、将棋駒、青	** **	-	
		3本	南西側河川	腐植土層		33	26. 30	1. 20	0. 40	磁、白磁四耳壶、山茶碗、土師器 皿、刀子、古銭、骨製笄	漆器	-	
千葉地東		3本	北東側河川	3 砂層	13世紀中	220	(17. 10)	1. 60	0. 30	青磁、白磁、青白磁(梅瓶、合子、水注)、二彩盤、緑釉、土師 是工、横櫛、竪櫛、陽物、花文漆 器皿、横櫛、竪櫛、陽物、花文漆 陽碗,皿、下駄、板草履、曲物、 陽物、土製紡錘車、土製円盤、坩 塌、骨製箅、石鍋、刀子、銅銭	漆器	-	
遺跡 文献23		1本	南西側河川	覆土	頃〜14世 紀初	254	(16. 30)	1. 20	0. 30	青磁、青白磁合子、緑釉、四耳 壶、山茶碗、火鉢、土鍋、石鍋、 瓦器、土師器皿、墨書土器、瓦、 土製円盤、土錘、羽口、漆器、、横 楠、下駄、车塔婆、呪符、版、小 独楽、付札、刀形、火鎖板、小 刀、刀子、紡錘車、銅銭	無	-	古代役所推定地
		1本	北東側河川	4 砂 層上 部		69	(15. 20)	0. 90	0. 30	青磁、白磁四耳壺、土師器皿、土師器皿墨書、舟形木製品、木札、 有孔土製円盤、土錘、骨製笄、刀 子、銅銭		-	
		4本東 5本東		第5層 第7層		223 71	35. 40 (20. 60)	1.80	0.60	下駄、横串 横櫛		-	
		5本束		<b>カ/</b> 眉		96	25. 20	1. 00	0. 40	横櫛、陽物、下駄、刀形代		-	
		1本	SD1375		13世紀	559	(16. 40)	2. 00	0. 40	人形、鼻繰、箸状木製品、担架 状・格子状建築部材、円形板、折 敷、漆器、曲物、下駄、草履、木 槌、火鎖棒		=	
		1本				742	(19. 50)	2. 00	0.30	付札木簡、舟形、独楽、箸状木製品、杓子状木製品、円形板、箱側	<b></b>	-	
		2本束	SD3190	最下 層	13世紀後 半	743	38. 20	1. 50	0. 30	板、青白磁、折敷、漆器、曲物、 横櫛、下駄、草履状木製品、柄、	(蓋、	-	
草戸千軒町造跡Ⅱ		1本	SE3275		13世紀	758	(30. 70)	1. 50	0.40	付札木簡、毬、人形、横櫛、鞘、 箸状木製品、折敷、円形板、杓下 大木製品、曲物、栓、漆器、心下 以木製品、無物、神深・路、草履状木製品、 等所質土器椀、備前・常滑・亀山・白 甕、東播系須恵器擂鉢、青磁・白 磁、骨角製賽子・針、石鍋、笄	漆器	-	流施の ・商収符末と力等 ・の収明五大型、 ・大学、 ・大学、 ・大学、 ・と述 ・と述 ・大学、 ・と述 ・と表 ・と表 ・と表 ・と、 ・と、 ・と、 ・と、 ・と、 ・と、 ・と、 ・と、
文献83		7本東	SG2740	下層	14世紀	693	37. 90	2. 00	0. 30	人形、舟形、刀形、陽物、毬杖、毬、箸状木製品、羽子板状木製品、羽子板状木製品、 佐塔婆、楔、籠、円形板、曲物、桶側板、漆器、折敷、杓子状木製品下駄、草履状木製品、へら、編具		-	大般若経転読札、 「南无阿弥陀佛」 と記した柿経など 出土。井戸、溝か ら室町時代の鏡 4 点出土。
		6本東	SG3060		14世紀	726	35. 50	1. 60	0.40	紀年銘墨書木札、人形、舟子味物、穏、箸球木製品、木料の大大大な塔姿、玉板、井子山を水水水が、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	漆器 (椀、 皿、片口 鉢)	_	
浦廻遺跡 文献71		8本東	4014	VШу	13世紀後 半~14世 紀前半	58	32. 90	1. 70		木簡(多宝塔及び地蔵菩薩等、南無阿弥陀佛、南無大日如来、柿経)、呪符、陽物形、刀形、箸(人骨の中に箸)、卒塔婆、下駄、杓子、漆器(椀・皿・片口鉢)、曲物、蓋、折敷、箱、火鎖臼、草履芯、刀子鞘、土師器質皿、骨(人・犬)	漆器	スギ	「元應二年」 (1320)と記された 卒塔婆出土。水辺 における葬送・供 養に関連した遺場も しくは祭祀具の廃 棄場。
清洲城下 町遺跡IV 文献30		6本東	旧五条川 (NR4001 4 群)		15世紀後 葉~16世 紀前葉	166木	10. 20	1.00	-	紀年銘卒塔婆、柿経、羽外板状木製品、木胎漆器椀、折敷、馮、常、	土師器一にりたる。出いた。本語のでは、本語のでは、本語のでは、また。という。または、またが、は、またが、は、またが、は、またが、は、またが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	_	城下町内部の川港 と祭、柿経(「金剛 婆、華経」)。木製形 代の龍の彩色の彩色の は、大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大

※扇:檜扇と扇子の両方を含む。宮都からは多数出土しており、今回はそれ以外の遺跡を中心に集成している。 ※要が残存しているものを束とした。

## 表13 井戸出土まなこ一覧表(1)

遺跡名 文献番号	遺構名	遺構の時期	まなこ	その他遺物	黒色・赤色 土器・木器	打欠	まなこ出土状況等	遺跡の性格
興福地遺跡 文献27	SE3	鎌倉時代初	小型片口壺 (美濃須衛産)	山茶碗碗・皿、美濃須衛甕、土 師器皿、伊勢型鍋、白磁碗、扇 子	白と黒の セット山茶 碗	有	片口の横を内面側から故意に 打ち欠いている。埋井祭に使 用した道具とともに、井戸上 層にまとめて捨てられる。	荘園関連施設か
橿原遺跡	第三号井戸	奈良時代	曲物				井戸底から出土。	
文献62	第十二号井戸	奈良時代	曲物				井戸底から出土。	
嶋上郡衙跡 文献55	井戸	平安時代中頃	二枚の合わせ口土 師質皿 (「天罡大 神王」「十二神 王」の墨書有)	斎串、横櫛、曲物、桃核、黒色 土器、灯明皿、羽釜、土釜、緑 釉陶器、灰釉陶器、マツカサ、 モモの種子、ドングリ・ヒョウ タンの実	黒色土器A2点、B8点、灯明皿7点		井戸底から出土。	嶋上郡衙
中畑遺跡 II 文献45	SE4	8世紀末(埋め 戻し)	須恵器双耳壺	斎串、檜扇か短冊形薄板、土師 器高坏脚筒部に細い角棒を挿入 したもの、ヒョウタンに先の焦 げた燃えさし状の棒を差し込ん だもの、杖状木製品、土師器高 坏脚筒部、墨書土器、ガラス坩 堝	10世紀中頃 に浅いった 戸枠に黒杯 土師器れ 入れられ る。	有	井戸中位に横位で出土。口縁 部を打ち欠く。	栗太郡衙関連遺跡。ガラマ宮存の が出出 房的施設では が推定される。
	SE6	7世紀中頃	須恵器広口壺	土師器甕、須恵器高坏	無	有	底面から20cm上で横位で出 土。口縁部を打ち欠いてい る。	I JEAC CHOO
矢倉口遺跡 文献43	SE06	8世紀後半~10 世紀中葉	完形須惠器壺1個体	皇朝十二銭(和銅開珎1枚、萬 年通宝6枚、神功開宝14枚)。 井戸中位から土師器坏120枚以 上、黒色土器碗、箸、曲物、桃 種子。	黒色土器 (10世紀 代)	無	V層最下層、井戸底部中央から、完形の須恵器壺1個体とともに壺下層より皇朝十二銭が20枚敷きつめられたように出土。	大規模は。本答書 ・ 大規模は。本答書 ・ 大規模は。示 を書 ・ 大規模は。示 下 ・ 大規模は。示 下 ・ 大規模を ・ 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模を 、 大規模 、 大規模 、 大規模 大規模 大規模 大規模 、 大規模 大規模 大規模 大 大 大
寺家遺跡 文献8~10	SE02	9世紀末~11世紀前半	井戸枠と同一形態	隆平永宝1枚、斎串1枚、円盤形 木製品、ヒョウタン1個体分、 墨書土器			井戸枠と同一形態で井戸底に ある。	気多神社政庁。
戸水大西遺跡 I 文献26	SE02	9世紀前葉	須恵器双耳瓶、肩 衝壺	井戸廃棄時に須恵器坏の中に小 瓶が置かれる。堀方から斎串出 土	無	無	井戸底から須恵器双耳瓶 1 点 と肩衝壺 1 点が横向きに出 土。井戸構築時の鎮納。	清官年代・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・
戸水C遺跡 文献31	SE1111( 大型横板 組井戸)	9世紀末~10世 紀初	須恵器双耳瓶	檜扇、柄杓、曲物、木皿、箸状 木製品、須恵器、土師器	無	有	井戸底に埋納。口縁部を打ち 欠く。	港湾施設的性格の強い遺跡。
山王遺跡 多賀前地区 文献89	SE50	10世紀前葉	土師器短頸壺	土師器(坏5点、高坏1点)、赤焼土器(坏1点)、灰釉陶器、緑釉陶器	土師器短頸 壺、土師器 坏にヘラミ ガキ後黒色 処理		不明	推定、国守の館
上野遺跡 文献92	SE01	11世紀前後	灰釉陶器長頸壺	土師器皿、土師器甕、灰釉陶器、「實平」墨書土器、土錘、 土製支脚、砥石、瓦、鉄製品	無	有	頸部を打ち欠き井戸底から出 土。	人名の墨書土器 出土。
柳之御所遺跡 50次 文献13	50SE3	12世紀	白磁四耳壶	墨書木片、印章、扇子、櫛、糸 巻、ものさし、宝塔、曲物底、 箸、方形曲物、折敷、篦、刀子 柄、下駄、土師器皿、白磁皿、 常滑広口金。 渥美壺、渥美片口 鉢・壺・甕	漆布で覆わ れた白磁四 耳壺		井戸底から出土。	推定、平泉館
志羅山遺跡 文献11	1号井戸	12世紀	白磁水柱(完形)、柄杓(曲物部)	櫛、漆器、握柄状木製品、土師 器皿、瓦、桃の種、栗、クルミ	漆器	無	注口が下で口縁部が南西側、 杓は裏返しで曲物部が北東側 と対称の位置で出土。井戸鎮 めに埋納されている。	平泉の活が出来る。中京の生活である。中京の生活である。中では、一方のでは

表14 井戸出土まなこ一覧表(2)

衣 14 サア	- Ш Т Ф	はこ一見る	ζ (Ζ)					
遺跡名 文献番号	遺構名	遺構の時期	まなこ	その他遺物	黒色・赤色 土器・木器	打欠	まなこ出土状況等	遺跡の性格
桜町遺跡 文献4、6	SE01	13世紀前半	水瓶(珠洲産)	多量のトチの実、連歯下駄、箸 状木製品、龍泉窯系青磁碗、白 磁、下駄、杓子、曲物、漆器 椀、骨片、中世土師器皿6点・ 碗5点、珠洲鉢3点、甕破片	珠洲鉢内面 に煤付着 1 点	有	井戸底中央に正位で据えられている。口縁部と注口部を故意に打ち欠き、注口部には箸状木製品が詰め込まれている。	在地領主層の住 居(館)
大町・縄手遺 跡 文献5、6	SE01	13世紀前半	水注(珠洲産)	トチの実、箸状木製品		有	口縁部と注口部を打ち欠き横位に納置されている。注口に 箸状木製品が差し込まれている。	崇徳院御影堂領 大屋庄穴水保に 係る中世開発領
御館遺跡 文献6	SE02	13世紀前半	小型壺 (珠洲産)	柄杓、漆皿、折敷、曲物底板、 箸状木製品、不明木製品、中世 土師器20点	内外面に黒 色漆のある 漆皿1点	有	口縁部を打ち欠いている。井底東側から出土。	主の館跡。水陸交通上の要所に立地した集落。御館遺跡から
美麻奈比古神 社前遺跡 文献4、5、6	SE01	13世紀前半	蓋付柄杓(曲物、柄なし)	人頭大の石2個、中世土師器7 点、青磁、箸状木製品、トチの 実、クルミの種子	無		井戸底に据えられ、左右に人 頭大の石あり。	「伊朗退跡から 「大般若経転 読」の墨書。
上ノ垣外遺跡 文献88	SE42	13世紀初	二つ合わせた山茶碗	櫛、「承元 > 年十二月十日」の 線刻の有る枡、完形山茶碗、伊 勢型鍋、川原石(50cm深で5 個、70cm深で7個)	有	無	伊勢型鍋の中に入って井戸中 位から出土。	東寺領川合・大 国荘の施設に関 連する可能性あ り。
草山遺跡 文献87	SE140	鎌倉末~室町	伊勢型鍋			有	底を打ち欠いた鍋の上に曲物 があり、それを固定するよう に三方に石が置かれる。	集落跡。

※まなこ:甕や壺が精霊や神、または棲家や依り代として崇敬される習俗がインドにみられる(松村武雄1930「井戸の考古学」より)。壺や瓶、甕がほぼ完形の形であるもの。口縁部が故意に打ち欠かかれているもの。